

2023 8/5~8/10

志賀高原

夏期合宿 作文 中学部

熱い夏の思い出

O・Kくん

「この合宿で学んだこと」

合宿当日の朝、正直ものすごく憂鬱な気分であっただけでした。仲の良いバスケット部は大会のため来られず、班員、担当の先生、部屋、授業のクラスなど何も分らないまま、長野の志賀高原という遠いところまで行って何が得られるんだとも少し思っていました。この五日間、ものすごく大変で、「楽しい」「最高」よりも「辛い」「苦しい」の方が勝っていました。当然そうだろうとは思っていましたが、実際自分が思っていた倍以上にきつかったです。

もともと僕は、勉強に対して、やり切るといふより、こなすという中途半端になっていました。ですが、班員や同じクラスの人が切磋琢磨しながらも自分の勉強や課題に向かっていくのを見て、「置いていかれる」と焦りを感じました。ここから、中途半端な意識から一つの課題に対してやり切るといふ事を考え、日々勉強に励みました。日々の目標カードで毎日の単語熟語テストの振り返り、長文や確認テストの振り返りを自分の思いを正直に書き、その振り返りを明日にどう生かすか、合宿前にたてた各教科の目標に対して今自分に何ができていて何がで

きていないかを考えました。

「説論」。このキーワードが自分をどれだけ怖がらせたか。このワードをできるだけ聞きたくありません。ですが、説論という言葉がやる気を伸ばしてくれたという部分もたくさんありました。消灯後、「全員出る！」という声を聞かないようにして寝たのもまた思い出です。合宿をしていくうちに、自分の成長を感じる場面がありました。その時の感覚は何より嬉しかったです。これから受験まで、約半年ありますが、自分ができることを全てやり切り、いい結果が残せるように頑張りたいです。

S・Kくん

「一点の大きさ」

ぼくがこの合宿で感じたことは、一点にかける思いの大きさです。

初日の八月五日土曜日、各教科一時間ずつ授業を行いました。国語は、テストがありませんでしたが、数学と英語の単語テストがありました。数学は前々から夏期講習で練習していた範囲からでした。数学のテストでは、普段三十分で二十問のテストが、十問だったので、必然的に見直しを何回かすることができました。そして、百点を取ることができました。

英語では九十四点で二つミスをしてしまいました。その時はあまり悔しさを感じませんでした。多分、最初だからという気持ちや頭の片隅にあったからかもしれない。そして同じように二日目もミスを受け、一つミス、もしくは二つミスというような結果で終わりました。正直あまり残念に思いませんでした。周りも同じ点が多かったからだと思います。そして三日目、この日は、二日目に計画が立てられておらず、英語の宿題を完璧にすることができず、おそれていた説論をくわいました。さらに、数学のテストで八十点をとってしまいました。説論をする部屋担当は、数学の関根先生でした。英語の授業が午前中だったため、その一日はとてもネガティブで気持ちが入りませんでした。そして夜になり、説論が始まりました。他の先生たちが大きな声を出している中で、関根先生は「D・ロリスト」について教えてくださいました。それは、テストの残り時間での見直しや、宿題でやったものにはチェックをつけるというものでした。それを次の日から実行したところ、九十三点にまで上がりました。そのことがとても嬉しく、さらにその日は国語でも初めて百点を取ることができたので、気分よく過こ

することができました。

この合宿での経験では、関根先生の説諭がとても大きかったと思います。教えていただいた「TODORIST」を最大限生かして、今後の人生で役に立てていきます。また、たったの一点と軽く見ず、全力で一点をとりにいくようにします。

S・Tくん

「新たな自分」

合宿の初日、正直憂鬱な気持ちでした。これから志賀高原という未知の世界で五日間、しかも普段使っているスマートフォンが使えない、こんな環境で耐えられるのか、と。しかし、いざバスの中に乗り込むと、仲の良い友人が周りにおり、笑い声が絶えなくて、このままずっとバスの中にいれたらなと思いました。

五時間の時間を経て、ついに宿に到着しました。合宿一日目の教科の順番は、英語、国語、数学でした。毎日各教科でテストがあると聞いていました。また、テスト範囲が、夏期講習で練習していたのとはほぼ同じだったので、満点取れるでしょ、と思っていました。しかし、国語、英語、そして得意な数学でさえ、満点を取ることができませんでした。一日目にして、絶望を味わいました。このままで

いいかと自分に問いかけ、五日間自分の全力を尽くしました。結果、数学で努力賞を取ることができました。

僕がこの合宿を通して下の学年に伝えたいことは、合宿は必ず新しい自分を見つけれられるということです。この合宿で僕は、新しい自分を見つけることができ、モチベーションが上がり、長時間勉強が嫌ではなくなりました。

K・Tくん

「言葉にできない」を体験する」

「デスターシャ！」僕はとにかく嬉しくて、この言葉を表彰式で何回も叫びました。僕はこのとき「言葉にできない」嬉しさを感じられたと思います。

合宿前、僕はとにかく一つは賞を取りたいと思っていました。そして、僕はそれができると甘く見ていました。

そして合宿が始まりました。第一回は数学で二位、総合で三位。第二回は数学と英語で一位、総合で二位。第三回は数学で一位、総合でも一位で偏差値も七十一、七十三、七十五と順風満帆でした。

しかし、甘く見ていたことがたり、第四回で十五位、偏差値も十以上下がりました。さらに熟語・語句テストも最後の一步が足らず、完全に疲れと甘さが結

果に現れました。そこで、自分の適応力の低さを感じることとなりました。そこから賞を取ることへの危機感を持ち始めました。そこで意識すべきことを再確認して第五回に英語で二位、総合で五位と立て直しました。疲れはあったものの、甘さに関してはある程度克服できました。そして第六回には数学で一位を取ることができ、その日に初めて語句テストで百点を取ることができました。

そして表彰式となりました。僕は数学で最優秀賞、英語で優秀賞を取ることができました。このとき僕は嬉しすぎて「デスターシャ！」という曖昧な表現しか使えませんでした。

僕はこの合宿を通して、「言葉にできない」嬉しさは、厳しい環境や何かを克服することで得られるのだと感じました。これからは自分への甘さをできるだけ捨て、真剣に物事に取り組めるようにしたいです。

H・Rくん

「自分を変えてくれた合宿」

合宿が始まる前は、他人に迷惑をかけるばかりでした。

集合時間に遅刻するといった生活習慣の問題で、先生に怒られてしまい、「この

ままで合宿を迎えてしまったらどうなるのだろう。」と思いました。とても自分を情けなく感じました。改善のために、「時間」を一番意識するようになりました。そうすることで、何事にもゆとりが生まれ、心にも余裕が生じると思ったからです。

そして迎えた合宿本番。前期夏期講習での反省を生かし、今までの自分をこの合宿で全く新しい自分に生まれ変わらせるという決意で臨みました。その決意が、合宿でのテスト（特に第六回）に如実に現れたなと思いました。なぜなら、自分を変えたいと思った上での目標であった星のシールを手に入れることができたからです。もちろん、それを手に入れるためには、同じ武蔵関で切磋琢磨している仲間だけでなく、光が丘の3Kの人たちにも勝たないといけませんでした。そのため、手に入れた時の達成感や感動は、並のものではありませんでした。

特に自分の得意教科としていた国語のシールは一から五回のテストで取ることができず、それを逃すたびに悔しい思いをしました。六回目にしてようやく手に入れたシール（二位のものだったけれど）は、自分を変えられたという象徴だと思いました。

受験までの半年間を支えてくれる原動力

力となり、自分を変えてくれたきっかけであるものは、この合宿以外ありません。これから合宿を経験する人も、これを機に自分を変えてみてください。

N・Rくん

「合宿を終えて」

この五日間は私にとってとても充実した期間となりました。東京の普段の塾とは異なる環境に身を置くことで様々な経験をすることができました。そんな濃密な合宿生活の中でも私が特に印象に残っているのは第四回のテストです。

それまでは到着してからは教科ごとに与えられる課題、各テストの直しを終えなければいけないプレッシャー、普段とは違う生活リズム、消灯後に聞く先生達の声がとてもありがたいお話から感じる恐怖などが原因でなかなか思うように問題が解けず、当然ですが結果も思うような数字になりませんでした。自分は漢字や英単語のテストもあまり得意ではなかったのに英語担当の水野先生が言った、「まだシール取れてない人いないよね。」という言葉がシールを一枚も取れていなかった私の心の焦りをより強くしたことは今でも覚えています。なにげない一言ではあったかもしれませんが精神的に追い詰めら

れていた私にはものすごいプレッシャーになりました。何もかもで良い結果が出ずに勉強する気も消えかけていました。そのような状態で臨んだ第四回では、

これまで自分が受けてきたテストの中でも過去一番とっていいくらい手応えがありませんでした。解説は翌日だったので職員達が答えを予想し合ったりしている中で私は一人絶望のどん底にいました。ところが、朝起きてテストの結果をみると一位という文字の横に自分の名前がありました。なぜこんなに結果がよくなったのかは今でも分かりませんが、きつと自分のこれまでの思いが問題に届いたのだと思います。

この合宿で私が得ることのできた一番大切なことはあきらめない心です。たとえどんなに悪い結果でも、あきらめずに努力し続けなければいっか必ず結果は出るということを知りました。この経験を東京に帰ってから生かし、受験絶対に合格したいです。

K・Hくん

「夏だ、日教だ。勉強だ。」

八月五日、朝五時起き。マジ最悪。これから行く監獄への恐怖と朝の眠気。一回眠気に負けたが、自分を奮い立たせ、

何とか勝った。そして、ついに着いてしまった志賀高原。大して硫黄臭くなかったから、嬉しかったのを覚えている。

迎えた第一回目のテスト。結果は六位で少し満足している自分がいた。そして、風呂。そして硫黄。ゆで卵の中に埋もれたようで、やばかった。二日目は、散々な結果で、偏差値七十台から六十台に落ち、三回目のテストの結果も、手応えが全くなく、マジで落ち込んだ。三日目は、なぜか分からんが、光が丘の人たちがシールをもらっていると、めちゃくちゃ腹が立ち、見返してやりたくなった。でも、

もしかしたら、ここは自分にとってのターニングポイントで、あんなに悔しいと感じたことはなかったの、案外成長できたのかも知れない。そして四日目、昨日の思いが通じたのか、二位を取ることができた。だが、五日目は散々、今現在、この作文を書いていて、明日には結果がくるが、見たいなんて思えるはずがなく、「安定」という壁が乗り越えられないといけない壁が、何重にも続いているのであった。

今回、この合宿……判定はAだ。クラスの人とも仲を深められたし、勉強だけの生活も、いけるもん人だと気づかせてくれた。特に数学に関しては、久しく忘

れていた「楽しむ」ということを思い出し、良い点だったときには、もちろん嬉しいが、悪い点であっても、切り替え、次に進むということを教えてくれた。そして今回の合宿は仲間と進み、仲間と結果を勝ち取るということを教えてくれた。「受験は団体戦」という意味がやっと理解できた。でも、やはり今大切なのは、結果を出すということ。今回、築いてきた土台を基に、未来の設計図を少しずつ完成させていきたい。

S・Tくん

「成長と発見」

僕は、合宿に来る前は成績が落ちてしまったときに、調子が悪かったからと済ませてしまったり、その教科は苦手だからとほとんど反省せずに流したりしてしまっていました。けれど、この合宿で自分の実力の無さ、不安定さを知り、このままではまずいと思いました。

合宿初日、僕は開校式で決意宣言をしました。自分は合宿では何かしらの発見ができると思い、わくわくした気持ちで宣言できました。そして、第一回のテストでは全体で二位、数学では一位になり、自分には実力があるのだという気持ちで嬉しくなりました。しかし、その後のテ

ストではテストの出来があまり良くなく、下ぶれてしまいました。やはり、そのときもあまり調子が良くなかったというので、終わらせてしまいました。その後は良くなったり、悪くなったりと波ができてしまいました。その中でも、悪い時は調子が悪かった、良い時は調子が良かったで済ませてしまいました。そう感じながら、合宿最後の日になりました。最後は良い結果で終わりたいという一心で、合いをいれて取り組んだつもりでしたが、結果は過去最低となってしまいました。そのときは悔しくて涙がこぼれそうでした。自分には実力がないのだと思い、落ち込んでいました。その時に、河内先生の言葉を聞き、新しい発見ができました。それは、自分に実力が無いなら、勉強するのみ。調子が悪いのは、自分に実力が無いから。それを安定させるために、一回一回を大切にしていって取り組むということです。それから、自分の足りないところを知ることができ、次につなげられる良い合宿になったと感じられました。後期も、そしてこれからの半年間、自分を磨き続けていこうと思います。本番では八十パーセントの力でいけるくらいにして、二月の勝者になりたいです。

T・Iくん

「十五歳、最高の思い出」

正直、僕は合宿に行きたくなかった。ただの旅行とは違って、五泊六日なんて長くてやる気が出ず、準備はしていたものの、何もしたくない気分になっていた。そして、実際に着いてみても、まだだらけてしまっている部分があった。だが、班のみんなやクラスのみんなが前向きに努力をしているところを見ると、自然とやる気になった。

今回の合宿では感じたことがいくつもあった。特に感じたことは自分の「らしなさ」と「なまけやすい」ということだった。いざ合宿が始まると、一日目には早速部屋チェックでバツをつけられ、自分のだらしなさに気づかされた。また、一日中、休憩中さえも勉強することは初めてで、想像以上にキツく、普段どれだけ努力していないかを思い知らされた。だが、三日目ぐらになると、だんだん慣れ始め、継続的にはできなかったものの、良い順位を取ることができた。だから、自分の強い部分と弱い部分に気づくことができた。そしてこれからは、今回の合宿で見つけた課題点を解決できるように、得意な部分、教科はクラス一位を目標に、この合宿が大きな意味となるよ

うに全力で頑張る。

また、今回の合宿では「仲間のありがたさ」のようなものを感じた。一人では絶対にこのスケジュールや課題量をこなすことができなかったと思う。仲間と励まし合い、全員が頑張ったからこそ、この合宿を乗り越えることができたと思う。そして今は「楽しかった」という思いが勝っている。ツラかったからこそ、こう思うことができ、最高の思い出にすることができた。本当に来て良かった。半年後、合格できるよう、全力で最後までやり切る。

O・Iくん

「八月八日の出来事」

合宿中、八月八日に誕生日を迎えた僕は、宿題に追われながら同じ部屋の人達に祝われた。その時、うれしさよりもヤバイ、ヤバイという気持ちの方が大きかった。朝の解説を終え、昼になり、五十嵐先生に、「今日、自分誕生日なんです。」と言つと、「あっ、そうなの?」と言われたので、続けて僕は「自分も中田先生にうちわをもらいたいです。」と言つと、五十嵐先生は自分たちのそばを通った中田先生に声をかけようとしたが、何故かスルーされた。自分も先生も「あー。」と何

とも情けない声を出した。今は無理かと思つたところ、再びそばを通ろうとしたところを僕は「中田先生!」と大きな声を出し、やっと気づいてもらえた。最初に、「兄がお世話になりました。」と言つたが中田先生はすぐに理解できず、まるでロード中のような状況。少し間があいて、理解したのか、「ああ!」と全てがつながったように見えた。続いて、「こちらこそ、お世話になりました。」と言つてくれた。そして、僕は本題に入るかのようになり、「あの、実は今日誕生日なんです。」と言つたところ、中田先生はなぞに「ふーん。」と言つた。これはまずいと思った僕は、しかたがなく、本音を言うことにした。「誕生日なので、うちわをもらうことってできますか?」すると、「おお、いいよ。」と快く受け入れてくれた。だから、「できればなんですけど、「十段」と書いてくれませんか?」とおこがましく言つたが、普通に、「了解。」と言つてくれた。その夜うちわをもらった僕は何ものにも代えがたい嬉しさと、感謝に包まれた。

Y・Hくん

「七色の合宿」

私の夏期合宿、人生に一度のこの合宿は、私にとって「成功」と言えるものだ

った。それは、失敗が無かったというこ
とではなく、いくらかの「成功」と濃密
な「失敗」を味わえたということだ。成
功の下には、何百もの失敗があることを、
この合宿で痛感した。

英語について取り上げる。英語は合宿
前に最も得意としていた教科で、どれほ
ど通用するのか楽しみだった。しかし、
途中のテストで納得のいかない点数を取
ってしまった。その時私は、時間がな
い中でできるだけ集中して直しを行った。

自分のミスに向き合い、適切な解決策を
模索した。その結果、次回、次々回のテ
ストはクラス内一位。腹の底から込み上
げてくるような嬉しさだった。そして、
表彰式。「英語、最優秀賞は——」自分の
名前が呼ばれた。自分の体を震わすよう
な喜び、興奮。それはHAPPYやEXCITED
などで形容できるような感情ではなかつ
た。私はこの感情を決して忘れないだろ
う。しかし同時に、数々の悔しさも忘れ
ることはない。私は、国語のテストで最
も多く悔しさを味わった。

合宿前は、国語はほとんど自分の元の
国語力で解いており、努力はあまりして
いなかった。しかし、この合宿で見た光
が丘の人たちの点数に、私は奮い立たさ
れた。一つ上の次元を覗いたような気が

した。合宿中にはその次元に届かなか
ったが、もがき苦しむことはできた。それ
はこれからの学習での大切な糧となるだ
ろう。

そんな苦悩の時、窓から見たものが
ある。虹だ。しかも百メートルも離れて
いない場所に虹の足があった。ああ、感
動してこういふことなんだな、と思った。
その時はわからなかったが、その感動が、
ある既視感であるとわかった。届きそう
で決して届かない、輝いて見えるものへ
の憧れ。それは光が丘の点数に対して抱
いた感情と似ていたのだ。

私は思った。何かに届くための努力は、
届いてしまったら、もう終わりなのでは
ないか。この合宿で私は一つ上の目標を
手にしたが、それからも常に挑戦を続け
たい。それがあの虹を見た気持ちを再現
することになるのではないかと思うから
だ。私はこの気持ちとあの七色の光を決
して忘れないだろう。

N・Rくん

僕は今回自分の弱さを知ることができ
た。二十四時間みんな平等で一緒に生活
して勉強できる合宿だからこそ気づけた
と思う。

自分の弱さとして、一つ目は勉強に対

する意欲だと思ふ。お風呂から上がって
から自習をするまでの時間、僕は荷物整
理をしている間に他の人はもう始めてい
た。初日はこのくらいの時間なら差はつ
かないだろうと思っていたが、そのちょ
っとした積み重ねで差がつくことを日が
経つにつれ痛感してきた。僕は他の人が
終わっているのに自分はまだ終わってい
ないという焦りがテストに反映したせい
かテストでは塾で解くよりもケアレスマ
スが目立った。

二つ目は、焦りがテストに影響するメ
ンタルの弱さだと思ふ。テスト中にまた
低い点数を取ったらどうしようという焦
りで全くテストに集中できなかった。五
日目までこの焦りで最前列に座り続け
たが最後は最前列では終わりにたくない強い
気持ちで受けたため全く影響せずいつも
のように解くことができた。合宿ですら
いつもと同じようにテストが受けられな
いから今の自分のメンタルだったら頭の
中が真っ白になって終わると合宿を通し
て何回も思った。このメンタルを強くし
て入試に挑むためにこれからのテストは
全て本番だと思つて問題を解く、日頃か
ら常に平静を保ち、少しのことで気持ち
が揺さぶられないように入試まで意識し
て毎日を送っていききたい。また、六日間

半日勉強し、五時に起きる体力を身に
つけることができたので、次の日は休みだ
からと気を緩めず身につけた体力を生か
して合宿前の弱い自分を変えて今日から
新しい自分で勉強に励んでいきたい。

S・Tくん

「今までにない自信」

今回の合宿はもちろん初日から最終日
までずっと大変で、しんどいときもあつ
た。しかし、それらを超える楽しみや喜
びが生活面と学習面の両方であった。

学習面では二つの喜びがあった。一つ
目は国語でクラス三位をとってシールを
もらえたことだ。これが一番うれしかつ
た。自分は国語がどの教科よりも苦手だ
った。それゆえ、ここに来る前も来てか
らも正直国語には自信がなかったし、シ
ールなんてもらえない訳がないと思つて
いた。しかし一回だけだが三位がとれた。
今まで一回も良い結果を出せていなか
った国語に謎の自信が湧いてきた。だから
といって次のテストでも点がとれた、と
いうわけでもなかったが、一回きりのこ
の結果で、たまにでも結果は出ることも
ある、ということがわかった。二つ目は
英語のテストで一位をとれたことだ。こ
こへ来る前から、英語はブレがあるもの

の、それなりに自信をもっていた。一回は一位をとりたいなあ、と思ってた。こへ来たが、残念なこと、前半は二位しかとれなかった。そして少し自信が薄れてきた中での後半戦、一発目で一位がとれた。自信をもっていた教科で自信通りに通用した。この事実だけが本当に嬉しかった。

そして生活面では特にこれ、といった楽しみや喜びは選べないくらいだった。正直言って合宿生活の全てが楽しかったし、今までにない経験だった。二日目で風紀のチェックが二つ入り、残り一つで罰則、まさに背水の陣だった。そんな中で、班員全員で協力し、最終日までしりだこと。表彰式では互いに称え合い、騒いだこと。全てが、東京での日常生活とは別の意味で良いものだった。今回の合宿では本当にたくさんものを得て、吸収することができた。そして足りなかったものは東京へ戻ってからのつかりと補い、結果が少しでも出やすくなるような生活、学習を心がけたい。ここまで来て本当に良かった。

K・Sくん

「六日間の合宿」

合宿初日は正直言って頭が痛くてテス

トをやる気なんて一切ありませんでした。その結果、最初の四回点数に悩みました。それで少し落ち込んでいる日々が続きました。そんな中でも、諦めずに、自分の反省点などを暗中模索し、着実に点数に繋げていくことができたので良かったです。その結果、最後五、六回目のテストは数学で両方とも二位を取れて、最高の気分になりました。けど一、二問のケアレスミスで一位を取り損ねてしまったのが非常に悔しかったです。英語は最初から問題の難易度もあったせいか高得点を安定してとり続けることができました。それでもTOP3にはあと数点足らず、毎回、四く六位辺りに停滞しました。だから、僕は今回の合宿で英語が一番悔しかったです。

今回の合宿で計六回分のテストを受けて様々なことを学べました。このことをこれからの学習などに生かして、より一層学力UPできるように頑張りたいです。勉強は置いといて、生活面でも良かったことはたくさんあります。それは班のチームワークがとても試されました。

僕たちの班は初日と二日目の連続で×をくらい、あと一回くらいは説論という状況の中で、その後、全て◎を最終日まで取り続けました。それは僕にとって

とてもうれしいことでした。

これらのことを経て、僕はどんなに「ンチで落ち込んでいる時でも、決して希望を捨てず、諦めずに、神頼みでもなく、自分の実力で一生懸命頑張って這い上がっていくことが大切なのだ」と学びました。最終日の前日、八月九日の夕方一日中雨が降っていた中、数十分ほど虹が出ていました。その虹の足は自分たちの目の前にあり、とても美しく輝いて、そびえ立っていました。まるで僕らの将来の道を示唆しているかのように。

A・Mくん

「最高の環境下」

私は毎回一喜一憂をしてしまう。今回の合宿でその自分の悪い部分があくつきりと出てしまったと思う。

初日、結果は悪くなかった。いや良かった。その慢心が二日目の結果を悪くしてしまった。そんなことを繰り返すうちに半分が過ぎてしまった。上位から下位に落ちる。それも周りが知らない人だらけ、誰が自分のことをどう思っているのか。そんなことを今まで合宿に来るまでは経験したことがなかった。上位の人の緊張感や未知の人の競い合いそんな中

で生まれてしまう一時の気の緩みや慢心それさえ直せば今の自分自身をもっと伸ばせる、修正力はあったのだと思う。でも、結果に波があるのはとても怖い、修正できてもその時では遅いかもしい。自身の直すべき点を示してくれた合宿になった。まあ、悪い点だけでなく良い点もあった。

最後のテストの解説が終わわり、部屋で自習をしていた時だった。窓の外に薄い虹が架かっていた。その虹は光が出るにつれ濃くなりやがて光が雲に隠れると薄くなり、消えてしまった。その虹は今までにないくらい近くにあり、虹の先端までも見ることが出来るほどであったが、森の木々が波を打つ毎に薄くなる虹にはそれなりの魅力があった。どれだけ輝かしいものでもそれは周りの環境があつてこそだという、この合宿で最高の環境下で学業に勤しんだことを自身の糧にしていきたい。

N・Nくん

「将来への道しるべ」

多くの夏期合宿特訓は、「なんだよそれ！めんどくせー」という気持ちから始まりまし。

ぼくにとってこの合宿は、最終的には

とても有意義なものにすることができ
ましたが、始まった当初はマヂでつらくて、
宿題が終わらなくて、朝五時に起きて勉
強するなんてことは、今までのほとんどの人

生の中では一度もなかったもので、精神的
にも身体的にも結構きつまっていて、
今もこの作文を書きながら早く寝たい」
って思っています。でも、本当につらか

ったことは、やはり風紀のチェックが一
日目と二日目で、二回連続でついてしま
ったことです。あと一つチェックがつけ
ば、説論になってしまおうという極限の状
態で、ギリギリまで宿題をしないと終わ
らないが、片付けもしなければいけなく
て、できなければ説論されてしまおうとい
う状況が一番きつかったのですが、最後ま
で説論されなかったことはとても嬉しか
ったです。

また、テストにおいては、今までのつ
けがまわってきてしまい、一回も満点を
取ることができませんでした。また、駿
台風テストも一回から三回までなかなか
本来の自分の実力を発揮することができ
ず、歯がゆい思いをしました。しかし、
四回目で順位を一気に四位まで上り詰め
ると、五回目ではついに一位をとること
ができました。沈んでいた気持ちが一気
にハイになって、冷めやらぬ興奮で授業

に集中することができませんでした。

五日目の表彰式で数学の部門で優秀賞
をとれたときは、もう頭の中が真っ白に
なっていました。

そうですね。あの奇跡を見たのは、五日
目の表彰式の前でした。ぼくたちが風呂
から上がっていると、それまで降ってい
た雨はやんでいて、濡れた地面が太陽の
光に照らされていました。そのとき、目
の前に、今まで見たこともないぐらい大
きく、きれいな虹が悠然とそびえ立って
いました。そして、何より感動したこと
は、「虹のふもと」が見えたということだ
す。その虹はまるで、ぼくたちに将来へ
の道を示しているようでした。今までみ
たことがなかったふもとが見えたとい
うことは、ぼくたちがその将来への道を上
れるまでに成長することができたという
ことだとぼくは思います。これらの志賀
高原と日教の合宿が起こした成長と奇跡
をぼくは絶対に忘れません。

I・Kくん

「花火」

私は今後の人生でこの合宿を二度と体
験したくない。先生の無茶ぶりともいえ
るたくさんの宿題、就寝時間になったら
聞こえる先生の怒号。何もかもが私にと

って初めての体験だった。重ねて言うが
こんな合宿は、人生で一度で十分だ。そ
んな中で私が特に印象に残ったのは花火
だ。

花火を見たとき、先生はこんなことを
言った。「先生達は、君達を導くすばらし
い光だ。そして、そのすばらしい光を浴
びた君達はまた後の者達にすばらしい光
をしめすだろう。」多分先生達は、花火の
ような光を見せているのだろう。高い空
にぐんぐんのびていきやがて大きな模様
をその澄み切った志賀高原の空に描いて、
様々な色、形で私達に見せたのだ。きつ
とあの花火はそのことを私達に教えるも
のだったのだろう。そして私は合格とい
う花火を打ち上げたい。

改めて、もうこの合宿を経験したくは
ない。しかし、自分の力不足を知れた機
会になった。私にとっては嫌な合宿だっ
た。しかし、悪くない経験になったと思
う。きつと私も二月に大きな花火を打ち
上げるだろう。

M・Oくん

「いろいろあった」

今回この合宿で感じたことが四つある。
一つ目は、谷津先生がどれだけ偉大な
先生かに気づかされたことだ。谷津先生

の数学のおかげで百点や九十五点、九十
点をとれたと思う。帰ったら、谷津先生
にたくさん感謝の言葉を送るつもりだ。

二つ目は、熱を出したとき、自己管理
ができていないと思ったことだ。そのこ
ともあり、八月九日は悔しい思いをした。
「〇〇なら」「〇〇していれば」など、た
くさん思った。この悔しさを糧にしたい。
三つ目は、佐藤先生が思ったより怖か
ったことだ。毎日夜になると、先生の怒
っている声が聞こえてきて、夜になると
「今日もか」となっていた。でもそれ
はその人が悪いのではないと思っ
た。

四つ目は、自分を過信すぎたことだ。
「自分ならできる」「なんとかなる」とい
う気持ちでシールを取りきれないことが
あった。英語の単語、熟語テストではま
ったく同じ思いをした。これが自分の反
省点だと思う。この反省点を生かして受
験を成功させたい。

最後に、とても意味のある、楽しい合
宿だったが、正直もう行きたくないで
す！

T・Kくん

「疲れた！」

俺は何をしていたのだろうか？何をし

ていたのだろうか？俺は何のために……
気づくと俺は志賀高原に来ていた。長閑な風景。鬱蒼と生い茂る木々。夜中に響き渡る虫たちのさざめき。自然豊かな場所であり、旅館の周りも見渡す限り山だらけだった。合宿で毎日勉強に勤しむだけだった。しかし、それによって得たものは今まで自分が勉強してきた中で一番有益なものだった。

国語では文章読解・漢字・慣用句といった基礎的なものから、確認テスト・漢字テストなどのテスト類などによって語彙力や基礎国語力が上がったと感じた。

数学では図形・二次方程式・一次関数・相似といった最近習ったものであり、自分の苦手なものばかりだった。しかし、合宿前の谷津先生によるしごきで、今まで分からなかった問題が分かるようになったため、合宿だけでなく、合宿前の勉強も力になったなどと改めて実感した。(谷津先生サイコー！)

英語では現在完了・受動態・関係代名詞といった数学同様合宿前の単元だったから普段塾でやっている時よりも分かりやすかった。

最後に一言、言わせてください！「疲れた！」

K・Rくん

「合宿の思い出」

今回の合宿から僕は学んだことが三つある。

一つ目は他の校舎の人たちと共に学ぶことによって、いつもとは違う緊張感で授業に臨み、自習に取り組むことができたことだ。そのことによってシールを取らないといけないという焦燥感にかられ、毎日プレッシャーを背負いながらテストをすることができたと思う。

二つ目は、説諭の声が大きすぎて寝られなかったことだ。最初の合宿説明会を聞いていた時は、笑っていたからあまり怒られるものではないと思っていたが、いざ本番になってみると怒号が飛び交い、まともに寝かせてくれるような環境ではなかった。

三つ目は、集団生活の大切さについてだ。今回の班行動で、自分が班員に迷惑をかけることができないプレッシャーや、全員で行動して、絆を深めるという大切さを改めて知ることができた。

僕はこの合宿を糧にこれからの生活に活かしていけたらいいと思った。また、この経験を後輩に伝えて、少しでも説諭が減ればいいと思った。

I・Rくん

「大変だった夏合宿」

今年、自分にとってはじめての夏合宿をした。この夏合宿は私には一生残る思い出になると思う。そのように思った理由は三つある。

一つ目は、やはり共に勉強してきた仲間と衣食住を数日間共にして互いの信頼をより深めることができた点だ。普段塾内でしか会わないし話さない友人と一緒に三食を食べ風呂に入り共に同じ部屋で寝て、起きる。このいつもの日常とはまた違う生活を続けただけ絆が深まるかは計り知れない。この特別な体験により私の彼らへの接し方も変わり、受験にむけより強い気持ちで取り組むことができるだろう。

二つ目は、普段絶対に会うことのない他校の生徒と同じ教室で共に学習し馴染みあえたことだ。このことは私に一つ目よりもより強い刺激を与えた。この体験により私は「チーム武蔵関」から「チーム日教」へと心持ちが自然と変わった。受験は団体戦でチーム武蔵関からより強いチーム日教になったことで私は受験をより強く意識し学習に取り組めるようになった。

三つ目は、一日十数時間集中して学習

した点だ。二日目から本格的に始まり、とても疲れたが、この数日間でもそれに慣れて楽しみながら一日中学習に取り組めた。この経験はやがて私の自信となり良い方へ行けるようになると思う。

最後に私はこの夏合宿で得た経験を次に生かして頑張りたいと思う。花火のように明るくまっすぐに最後合格してはでに大きな花を咲かせたい。

Y・Aくん

「やりきった夏合宿」

「今日ゲーム持ってきた」という雑談から始まった夏合宿、バスに乗り宿につき、いよいよ宿での集団生活が始まりました。やはり、初めのうちはいくら合宿と言っても勉強だけのはずはないと思っていましたが、実際の内容は勉強づくしの生活でした。

僕がこの合宿で体験したことで強く印象に残っているのは、集団生活の厳しさです。誰かが、禁止事項を犯せば全員が説諭を受ける。そんなプレッシャーにやでも圧迫される苦しさは今でも鮮明に覚えています。

また、普段の五分前行動もなかなか厳しかったです。普段からゲームも制限なしでタラタラとやり、時間感覚が身につ

いていない僕ひとりでは、五分前行動を徹底することはできなかつたと思います。しかし、他のメンバーが主体性を持ち、「今から全員で行こう」などと声をかけてくれたので、合宿中一度も遅刻せずに乗りに切ることができました。

合宿といえば勉強。この夏期合宿で一番きつかったのはやはり勉強でした。毎日の授業その他暇な時間はずっと自習。そんな普段とは全く違う生活を強要され、めまいを起こして倒れそうになりましたが、先生からの応援や、テストの反省をした分だけ、上がっていく点数はやはり自分のモチベーションにもつながり、数学で優秀賞を取ることができました。僕は、はたしてこの合宿で点数だけでなく、生活の面でも成長できたでしょうか。僕はこの経験を生かして受験に向かっつていきたいです。

H・Kくん

「夏期合宿」

僕が今回の夏合宿で頑張ったこと、意識したことは全部で二つある。一つ目は英語である。この夏合宿の約一カ月前に行われたクラス分けテストで英語がとても悲惨な成績になってしまったので、今回の合宿では特に英語を頑張

ろうと思った。緊張の初日、英語は最初の授業であった。事前に配られたプリントでは担当教師は武蔵関ではなかったのて完全に未知であった。しかし、担当教師であった延藤先生はとても優しく、分かりやすかつたため、すぐになじむことができた。そして日々の宿題をこなしながら授業中に行われる単語・熟語テストでは一回ミスってしまったもののそれ以外は満点を取り、実力テストではほぼ八割をとることができ、今回の合宿で英語に自信をつけることができた。

二つ目は班活動である。夏期講習中に配られた目標カードには「生活面では絶対に怒られない」と書いたが、二日目で早速二回引つかかってしまい、残り一回となってしまう。ここで自分たちは美化に関して強く意識し、何とか最終日まで怒られずにやれた。この中で僕たちの関係はより深まり、日々切磋琢磨してこの五泊六日の合宿を乗り切ることができた。

これらのことを経て、今回自分は、受験は団体戦ということは本当たと感した。先述したとおり今回の合宿は班員がいなければ最後までやり切れなかつた。だからこの合宿よりキツイであろう直前の受験勉強の際には友達との関係が非常に重

要だと感じた。また今回自信をつけられた英語や総復習した国語・数学を今後あるVモギやクラス分けに生かしていきたい。

F・Kくん

「前をむこう……」

僕がこの合宿で得たものは数えきれないほどある。学習の面でも生活の面でも成長できたと思う。この合宿での思い出などを紹介していこう。

僕はまず夏期講習を野球の大会でいけないことが多かつた。そのため、大会後の確認テストはかなりひどい結果だった。そして講習を受けていくことに、点数は少し上がっていったが、周りに比べたら圏外のような状況だった。そして、合宿一日目、僕は高校野球のセレクションを受けに行ってしまった。一日目は合宿に行けなかつた。二日目も同様に高校野球に行ってしまったが、夜から長野に移動した。車の中でずっとどのような合宿なのか、みんなとどれくらい差がついてしまっているのか、そのようなことをずっと考えていてとても不安だった。そして宿に到着数学の授業を受けに行った。そしてみんながむかえてくれて不安が少し減った。しかし、みんなシールをたくさん持っていて危機感を覚えた。そして消

灯後、急に先生の怒鳴り声が聞こえた。かなり絶望した。ミスをしただけでこんなに怒られるのだ、と思った。

三日目は僕の中で一番つらい合宿の日になった。まず、英語のテスト、それから漢字や読解、数学のテスト全てにおいてひどかつた。人生で久しぶりに「四面楚歌」という四字熟語を思い出した。それから危機感を持って勉強した。そして英語のテストや国語のテストの点数がかなり上がった。そこで、人間は一日だけでもかなり変わるのだな、と思った。これまで悩んでいたことも少し楽になった。

このように合宿は終わりを迎えた。僕たちはまだこれから半年の間この合宿でつちかつたことを肝にめいじて勉強をする。まずは、みんなと同等な立場にいられるように全力で頑張る。そのようなことを考えさせてくれるすばらしい合宿だったと僕は胸を張って言える。

I・Tくん

「楽しかった六日間」

私はこの合宿でスマホ、ゲームなどを一切さわらず、勉強だけする六日間を通して感じたことがいくつかあります。

一つ目は、一日一日がだんだん早く感

じたということです。その理由は宿題が多かったり、直しが多かったりしたからです。しかし、早く終わらせるコツを先生に聞き、暗記を頑張ると早く寝れたので、早く起きる必要もなくなりました。

二つ目は、シールを取るという目標があつてよかつたということです。教科によつて違つたけれど、シールは満点を取つたりクラス最高点を取つたりするともらえて、私は満点シール三つと三位のシール二つをもらえました。友達の点数で負けても、シールの数でマウントを取ることができたので気持ちよくなりました。最終日に「努力賞」「優秀賞」「最優秀賞」がもらえるかもしれないと思つて勉強しました。

私はこの合宿でつらいこともありましたが、最終的には合宿に来てよかつたなと思ひました。点数も掲示されるので頑張る気持ちにつながります。いい点数をとると後ろの席にいくので後ろからの眺めが最高でした。チューターさん、美男美女でうらやましかったです。

H・Rくん

「成長」

「優秀賞は平岡隆太郎くんです。」先生が言つた瞬間、自分は叫んだ。「よっしゃ

ー!!!」その時勉強の快感を知つた。合宿初日、教科ごとにトップスリーは表彰されることを知つて、自分の得意教科の数学で最優秀賞は取つてやろうと思つた。初日のテストは調子が良く、百点を取れて一位で、二日目も九十五点を取つて一位だつた。このまま最終日まで一位でいけるかと思つたけど、日教の合宿は甘くなかつた。三日目の点数は八十五点で二位だつた。初めての二位で悔しかつたけど、正直心のどこかでは明日は一位しよとか思つていた。しかし四日目には三位にまで落ちてしまつた。この時自分は、今までにないくらい悔しくて、他の宿題をはやく終わらせて数学をずっと勉強していた。そしてむかえた合宿最終日、漢字で百点を取り調子良かったが、数学は八十五点で二位だつた。しかも自分の超凡ミスで一位を逃してしまい本当に悔しかつた。でも、合宿前の自分ではこんなことは正直思わなかつたと思う。そして最終日の頑張りもあつて、自分は二位の優秀賞になつた。うれしかつたけどやっぱり一位を取りたかつた。でもこの悔しいという感情がこの合宿での「成長」だと思ふ。

N・Sくん

「団体戦」

自分は今回、国語で努力賞を取ることができたのも、漢字テストで二回百点を取ることができたのも、どちらも仲間と協力し、団体で一丸となつて一つの目的を追い求め続けられたからだと思う。

自分は最初、正直悪い描いていた旅館、想像していた風呂、楽しみにしていたピュフエとかなりかけ離れており、今思えば遊びに来たわけではないし、夢を見すぎたとは思ふ。しかし、初日が終わり、「あと四日もある。」と思つていたのもつかの間、気づけば明日で合宿が終わるといふところまで来た。みんながやはり口をそろえて言うのが、「あつという間だつた。」ということであり、自分もそう思つた。話は最初に戻るが、自分は最終的に

「国語に関しては」授業の担当の先生が五十嵐敏也先生だつたこともあり、一位は一回も取ることができなかったが、安定して二、三位をとれて、平均的に一番後ろの席に座ることができた。そして何より、自分がここまで国語に向上心をそそぐことができたのは、日教の校舎関係なしに、団結できていたからだと思う。「漢字と長文テストの合計点何点だつた?」「Top3入れるかな?」など何気

ない会話をくり返しているうちに、「自分はおもつとやれる。」とやる気になった。初日に「合宿は団体戦だ。」と五十嵐先生がおつしやっていたが、今となって考えれば確かにそつだと痛感している。

最終的に国語では三位といえ、日教になんらかの功績を残すことができたのは本当に良かったと思う。改めて、この合宿に参加できて本当によかつた。

N・Yくん

「夏期合宿を終えて」

今回僕は五泊六日の夏期合宿を終えて、僕が感じたことを書いていこうと思ふ。

まず一つ目、行きのバスでの合宿のイメージ、二つ目、実際に五泊六日の合宿をやつてみての感想、三つ目、今後どう生かしていくか。

まず一つ目、ここ志賀高原に来るまでのバスの中の気持ちについて話していく。行く時は楽しかつたが、この楽しさがいつまで続くのだろうかと思ひながら友達と楽しんで志賀高原までいった。

二つ目、実際にやつてみて。実際に行つてみて、最初の感想は、めちゃくちゃきつい。こんなに一日で勉強することないし、まず宿題が次の日までというのがまたきつい。初日から説諭をくらつて、

こんなに説論ってきついのかと感じながら、十五分壁に向かって反省していた。

それからもう絶対説論はくらわないぞって思ったのに、最終日内村先生の助言がなければ、三十分説論になっていたから、本当に内村先生ありがとうと思った。くやしかったのは、星シールが一枚もとれなかったことだ。初日と二日目は「まだ時間はある」と思いながら勉強をしていたが、時間は過ぎていき、余裕と思っていたのがあつという間に最終日、そしてシールはとれず、けれどジャンケン大会で「シールを持っていない人」と言われ立ってジャンケンに勝てたことは嬉しかった。

三つ目、今後について。この合宿をやつて分かったことと今後の生活についてまとめていく。まず感想、一昨日の花火、最終日のジャンケン大会が楽しかった。その分勉強はつらかったけれど、自分の長所や短所を見つけてよかった。今後はしっかりと合宿でやったことを忘れずに、しっかりと取り組んでいこうと思った。最後に一言。日教サイコー！

C・Hくん

「変化」

この合宿を経験し、自分の中で変われ

たこと、それは何といつても、「勉強に対して本気で取りくめるようになったこと」だ。合宿に行く前の夏期講習の時の自分は、正直勉強に対して本気ではなかった。

「クラス内で一番を取ろう」とは本当に思っていなかった。しかし、合宿中のテストの後、同じクラスのライバルが次々とシールを獲得して喜んでいっているのを見ると、しだいにライバルから刺激をもらい、僕もシールをもらいたいという気持ちが強くなっていった。それと同時に、自分だけシールがないことへの焦りや不安が強くなった。気がつけば、シールを目指して、かつてないほど本気で努力している自分がいた。「シールをもらいたい」という一つの思いで頑張ってきた。そして、三日目の国語の漢字テストで、初めてのシールを獲得した喜びと感動は、今でも鮮明に覚えている。

今回の合宿。楽しいことばかりではなく、大変で、辛かったこともあったけれど、成長できた部分ももちろんあった。シール獲得だけを指して、ただひたむきに努力し続けるという経験は、合宿に行かないという選択をしていれば得られなかったと思う。しかし、勉強は合宿が終わっても続けていかなければならないので、今後も合宿の日々を自分自身の糧

として努力を続けていきたいです。そして、三月一日に第一志望校に合格し、大笑いできるその日まで、残された半年間を無駄にすることのないように、精進していきたいです。急に話を変えますが、合宿、最高に楽しかったです！

N・Rくん

「夏期合宿を終えて」

僕が夏期合宿を終えて思ったことは、努力は裏切らないということです。僕は最初この合宿に参加するまでは正直、行きたくありませんでした。六日間もの間スマホやテレビと遮断された中、勉強だけに集中できるか、とても不安でした。

ですが、参加してみると毎日単語・語句・文法テストがあり、正直勉強以外のことなど最小限でしかできない環境でした。六時半に起き、朝食を食ベ三コマの英語昼食三コマの国語と数学、風呂と夕食を食ベ二コマの数学、そしてそれらの宿題に追われ十一時の消灯。このような時間が続くこと知り絶望でした。国語はB1に入れたものの最初からピリを取ってしまい、これでもB1でやっていけるのかなと思いました。だからこそ、次の日から国語の文章題に力を入れ、分らない所を聞き、解き方を覚える。それを

繰り返したら、なんと次の日は七位を取れました。この後も満足する点とはいきませんが、十位、十一位と最初よりずいぶんとよくなりました。

これは国語に限ったことではなく英語、数学でも同じことだと思いました。分らないところの解き方を教えてもらいその方法で別の問題で練習し、身につける。これをくり返し行うことで、どんな苦手なことでもどんなに遅くとも少しずつ確実に前進していくことが分かりました。この気つきを合宿だけで終わらせず日常に戻っても、くり返し努力を続け、受験の月まで少しずつ進歩していきたいと思いました。

N・Kくん

「成長の五日間」

初日、朝五時半に起きて六時に期待と緊張の気持ちを抱き日教に向かいました。志賀高原について、最初は英語の単語テストでした。その時の結果は九十五点、凡ミスで二ミスしてしまい、とても悔しい思いをしました。同時に、次の単語テストでは確実に百点を取るといふ決意が固まりました。

次に受けたのは国語の授業、国語の先生は光が丘の先生かつ、B2で他の二教

科とは一つレベルが上の授業だったので少し緊張していましたが、国語の伊藤先生はすごく優しい方で安心しました。授業の内容はテストだけでした。テストの点数は六十点で周りのみんなよりは高かったけれども少し点数を取りたかったです。最後は数学の授業、内容はテストでした。点数は祐野先生のおかげもあって、八十点を取ることが出来ました。

話は飛んで最終日、この日はとても濃い一日になりました。この日の英語の授業で内村先生から、三位の人と八点離れているよ、と教えてもらってやる気十倍で挑んだ最後のテスト、見直しはいつもよりも、もっと、もっと、丁寧にやったし、いつもよりも集中して受けたので絶対大丈夫、と思いつつ、やってきた点数発表。自分の発表の後に三位の人の発表がきて、なんと二十点差をつけて勝利。最後の最後であがくことが出来ました。やってきた表彰式、努力賞ですが、表彰してもらうことが出来ました。合宿に来て良かったと思えました。塾を超える塾は日教だけです。

T・Nくん

「十五の心に誓ったこと」

僕はこの夏期合宿特訓を終えて学習や

気持ちに大きな変化があるように感じました。いつもとは違う環境、大切なクラスメンバ―たちと過ごした五泊六日は苦しい思いや嬉しい思いをした反省などもあるつまったいものでした。

仲間と一緒に何かを成し遂げる、成功をさせる大切さを一日目から知ることができました。僕のようにどこか抜けているような人間でも温かく、共に笑い合い、苦しい時を過ごしました。ある時には悪い面となり、班で説諭を受けたことなどがありました。その説諭で最も心に刻まれた夜があり、連絡係の横山君、少なくとも僕は入り組んだ感情の中、涙があふれました。今はなかなか言葉に表すことができませんでしたが、班員に対する謝りたい気持ち、悔しさがありました。どんなに頑張ってもどこかでミスをしてしまったり、はしゃいでしまったりと今までの行動に反省と後悔から、勉強への強い決意が固まったと思います。

僕はなぜこの合宿に来たのか、勉強をこなすにしようとする理由はなぜか、あの先生の言葉が良い薬になりました。自分が将来好きな宇宙にかかわることがしたい僕は考えました。消灯後に網戸からかすかに見える星々がさらに思いを強くさせました。人にやらされるのではなく、

自分から勉強する。勉強内容の質を上げる。他の人より多くの勉強をする。合宿の中で時間を有効活用する、そして夢を実現させたくて頑張れることができると思いました。

十五年間で、無駄なく過ごせた五日間では、自分の実力や仲間の性格について知ることができました。苦手な単元が分かったことと家に帰ってからの楽しみになるのは合宿のおかげだと思います。近い目標ではSクラスの中位層に安定すること、少し遠い目標では好きなだけ星を見られるように勉強にずっと本気で挑んでいきたいです。

C・Hくん

「思い出の合宿」

僕は、初めのころからあまり合宿に行きたくないと思っていました。そして、それは志賀高原に着いてからも変わりませんでした。けれど、一日一日を過ごしていくと自分の中で色々と変化がありました。

一つ目は、授業への取り組み方です。今までの塾外での授業では、あまり集中して取り組めていなかったり、先生の話聞いてメモを取ることが少なかったりしたけれど、授業を重ねていくことによ

り、自分から進んでできるようになりました。

二つ目は、班員との協力ができるようになったことです。初めは、あまり連携が取れていなかったけれど、まず、風紀チェックで二重丸を取るということを目標としてみんなと声をかけ合うことを始めました。そして、二重丸を無事受け取ることができました。すると、その時には既に教室やお風呂、食堂への移動の時間の声かけができるようになっていました。ここで僕は絆を深めるということを実感できました。

三つ目は、自分の普段の生活についてです。三日目に先生から受けた説諭では自分が普段の生活から自分に対して甘いこと、適当になっていると指導をされて、確かにそうだなと自分でも痛感しました。そのため、次の日からは何事も丁寧にやっけていくと決めました。合宿から帰っても続けていきたいと思えました。

四つ目は、感謝の気持ちを持ち、それを伝えるということです。僕は合宿中教わった三教科の担当の先生に対して感謝の気持ちをもちました。そして、最後の授業で伝えられました。

このように、僕はこの五泊六日の合宿の中で様々な経験ができました。そして、

そこで成長することができたと思います。この六日間で得たことを胸に、夏後半、受験に向けて突っ走っていききたいと思いません。

D・Hくん

「日々の行動は現状と環境を変える」

この合宿で、私は自分の行動は、自分の現状と自分の周りの環境を左右すると思いました。例えば、私は合宿二日目、私は、日々の勉強を間に合うように適当に過ごしていました。それなら確かに、次の日の宿題は終わります。しかし、「それで本当にいいのか。周りの人がうるさいとき、個人的な理由のみでしかるだけで本当に伝わるのか。」と自分が行動するべきなのではないのか、と感じたのです。このことは、全体的な日々の生活では感じたことがなかったものでした。人は、日々の生活から離れ、閉ざされた場所で生活を強いられると、価値観が変わると本でも読み、国語の問題でもありました。しかし、実際に体験してみると、そのような文章で言っていることがありと感じられました。

学習での考え方も似ていると思います。自分の解いた問題数や合宿中の学習の理解度などによって、その学力や「自分を

知る」ことができ、試験当日のひいては行く学校さえ現状や環境が変わるのではないのでしょうか。この合宿で、武田先生は、八十パーセントで周りより頭が良ければ、安心して挑むことができると言っていました。私は、その状態を作るためにどのような行動をする必要があるのか、一番大切なことなのではないかと思

います。これはある先生の言葉です。「生活と学習は車輪と話した、時間管理をしっかりすれば、どちらも充実する！合宿は逃げ場がないんだから、自分をしっかりと見つけ大きく成長できる場なのです！」

このようなことから、現状とは、自分の八十パーセントの力が、どれだけ高いかということ、環境とは、自分や相手がどのような影響を与えているのかによって決まるものだと考えました。合宿は説諭しかり、宿題しかり、とても大変で、つらいものです。しかし、それと同時に、そのつらさを知ることこそが、闇を照らす光になるものと分る鍵になるということも知ることができます。

J・Aくん

「タフな十五才」

私はこの合宿でピンチはチャンスに変

えられるということを学びました。そして実は私は今年最多の説諭回数でした。しかし、だからこそ今までは確実に違う大きな改心とやる気を身につけることができました。そして、日教の夏期合宿特訓で自分が成長できたと思ったことは二つあります。

一つ目は、効率のよい勉強の仕方です。初日や二日目は宿題に追われ勉強することの意味を考えずに学習をしていました。しかし、三日目の朝、少しずつ生活に慣れてきて余裕が生まれたので、普段はしない朝学習をしました。すると、どうでしょう。今まで一回も取れなかった漢字語句テストで百点満点をとれることができましたのです。今振り返ってみるとその前の日の説諭というピンチから絶対に百点をとってやるという意思と朝の新鮮な脳で勉強に取り組んだことが吉と出たのだと思います。そして、この学習の仕方は朝の目覚めもよくなり後ろの席に上り詰めることで自分より前のやつらは点が低いという絶対的な自信と達成感も得ることが出来ます。このことが合宿での大きな発見であり、自分の成長できたことだと思いました。

二つ目は、説諭を反省し、行動にあらわすことです。残念ながら私は四日連続

の説諭になってしまいましたが、今となってはいい思い出です。しかし、私はそこで自分がこれからどうすべきかを考え、五泊六日の中で初日と比べ、メリハリをつけ自分から騒ぐことはなくなつたと思

います。このように合宿を通して、そのときその場でこの作文の冒頭のようにピンチを感じてもそのピンチを薬にしてはいい上がることができたと思えました。まだまだ改善点はあるけれど、夏はまだ終わっていません。だから私はこれから全力を出して日進月歩していきたくいです。

M・Tくん

「山あり谷ありの説諭」

自分は、五泊六日の勉強合宿に行った。今回は合宿の中で一番記憶に残った説諭について話す。説諭とは簡単に言うと説教のことだ。

合宿一日目、東京から出発して志賀高原に着いた。この日は説明をされ、簡単に授業して終わった。まだみんな緊張して、誰も説諭にならなかった。

合宿二日目、この日は同じ部屋のメンバーが点数計算を間違えて説諭になった。部屋のメンバーと一緒にさつと茶化しまくった。そして消灯の時間にな

いんじゃないか、と思う。

Y・Kくん

「自分は連絡係としてふざわしいのか。」

った、そいつが部屋の外に出て、クスクスと笑っていた。そしてついに説論が始まった。もちろん口に出して笑ってしまった。そうしたら先生が、「今笑った人出て、中馬、横山。」といった。メンバーの名前が呼ばれた。次は自分なんじゃないかとドキドキしているとそれ以上は呼ばれなかった。最終的に説論になったのは三人だった。

合宿三日目、この日はひどかった。みんな緊張がなくなり、歌い出すやつまで出てきた。そして運命の消灯の時間、誰かが言葉を発した。その瞬間、「四二三全員出ろ！」怒号が聞こえた。四二三とは自分たちの部屋番号だ。とりあえず出て、怒られる。初めての説論だ。反省し、次に生かそうと思った。

合宿四日目、傍観者として怒鳴り声を聞くのは初めてだった。その影響でなかなか眠れなかった。

合宿五日目、ついにやってしまった。「グッドモーニング。」嫌な予感がする。予感は当たった。寝てしまった。初の個人説論、と思ったがなんと説論はなくなつた！やつたぜ！

生活の中では何があるか分からない、そんなことを、説論を通して学んだ。こんな形で学んでもそれを生かせるならい

合宿初日の朝、普段では考えられない時間に起きた。その時間ではまだ家族の何人かは寝ていた。その時の僕は期待と不安でいっぱいだった。そんな気持ちをかかえて、僕は塾へと向かった。

塾には予定よりも早く着いた。そのため、塾の目的のクラスへ入ったときにはまだほとんど人がいなかった。その後、僕は塾に着いた時にもらったしおりを見てみた。そこには予想していた通り、自分にとって地獄と思えるようなスケジュールだった。だが、もっと驚いたのはその後のページだった。そのページには各部屋のメンバーとその班の生徒委員について書いてあった。自分が驚いたのは、その部屋の班長のような役職の「連絡係」に自分が選ばれていたことだ。

バスで宿舍まで移動してから一通り荷物の整理を終え、合宿のガイダンスを受けているとき、僕は意外にも合宿が楽しみでしかたがなかった。その後の授業もとても分かりやすく、その後の夜ご飯もとてもおいしく、何事もなく終えることができそうだと感じた。だが、食事後か

ら入浴までの間、連絡係として班の人に呼びかけたとき、何人かは真剣に聞いてくれたが、何人かはふざけてきた。僕はそのとき、かなり不安になった。そのよくない予想は当たった。早速二日目の夜に班の一人が怒られた。次の日も、夜に班の何人かが怒られることになり。その人をからかったり、各自ゆっくり移動したり、寝る時間がどんどんせまっていた。

しかし、結局就寝時間に間に合わず、班員全員が呼び出され、全員まとめて怒られてしまった。怒られている最中に、いつも自分の指示をまともに聞いてくれないう人に対して、先生が「連絡係の気持ち考えたことあるのか」などと言っており、自分は内心「それ見たことか」と何度も思った。だが、その先生が自分に対しても注意してきたときには驚いた。なぜなら自分は決まりを守って行動してきたと思つたからだ。しかし、僕はある言葉を聞いてはつとした。その先生はこう言った。「みんながしっかりと指示を聞かないのは君にも問題がある。それは普段の君の過ごし方だ。」僕はその時、合宿中の行動を振り返った。たしかに、基本的に自分はルールを気にして過ごしてきたが、

たまに自分は班員と一緒にふざけてしまっていた。自分がふざけているの

に、そんな人が注意しても聞かないのは当たり前だとも思った。そこからは、班員の見本となるように、毎日英語や国語の小テストでは満点を取った。また、分らないことは積極的に先生に聞くようにした。その結果、自分の苦手な国語の点数を上げることもできた。

僕はこの合宿で何度もつらい思いをしたが、その分、手に入れたものも大きかったと思う。だからこそ、そのことに付かせてくれた先生にはとても感謝している。この調子で、合宿後も周りの見本となれるような行動をできるよう励みたい。

N・Tくん

「計画」

人生初めての塾の合宿。正直なところ、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入りまざっていた。

一日目。初日から電子辞書を忘れ、夜中に説論を受けた。その時、まだまだ自分はこんなものなのか、と心が痛んできた。そこから、授業が始まり、テストも受けた。いつものテストよりもレベルが高く、自分の思い通りの点数が取れずなぜか分からないが自分に腹が立ってきた。そんな中、四日目の国語の時間。いつも

の長文テストを受けた。そしたら、自分が思っていた以上の点数を取ることができた。なぜ、こんな点数がとれたのか考えてみた。すると、ある一つの行動を思い出した。それは「計画」だ。前回の国語の長文テストの点があまりにも悪過ぎたので、その日の夜、そのテストの見直しをし、明日はどんな風に解いていこう。どんな問題が出るのだろう。一つ一つの大問にどれくらい時間を費やそう。そんなことを寝ている時も考えていた。そして四日目。テストで良い点を取れた。「計画」という言葉の意味を調べてみた。「物事を行うに当たって、方法・手順を考え企てること。」と書かれてあった。受験もそうだ。今までの学習を思い出し、不安なところは徹底的に潰していき、本番に備える。この合宿で僕は新たな自分を見つけたことと計画を立てることが大切なのを学ぶことができた。

T・Gくん

「つらすぎた合宿」

僕は、先輩からこの合宿のことを聞いていて、正直いきたくなかった。そして、その先輩から何かをやらかすと消灯後に廊下に出て怒られると聞いていたのでそれを聞いてもつと行きたくなかった。

でも実際行くと、部屋では自習でしゃべれないけど朝食の時・昼食・夕食の時にみんなと過ごすことで元気をもらえたよいうな気がした。先生たちともしやべって勉強のことを聞き、おかしな話をするのがとても楽しくて、そのおかげで授業もうけられたような気がする。夏期講習よりも、全然楽しかった。これは谷津先生のおかげだなと思った瞬間でした……合宿の中で一番嬉しかったのは、努力賞をもらえたことでした。とても嬉しくて言われたときはびっくりしました。でも、もうちょっとわからないところは復習しておけば最優秀賞をとれたかもしれない。だから嬉しいのか悔しいのかわからないけど、もっと勉強しておけばよかった。

N・Rくん

「合宿を終えて」

今回、合宿を終えて率直に書きたいと思う。

まず、学習を一言で表すとただただ「楽しかった」。夏休みに入る前までは嫌だった。ほとんどが僕は知らない人だったので一緒に泊まりたくなかった。だけど、講習などを通して仲良くなった。塾で勉強するのが段々苦じゃなくなってきた。だから、「ものす〜く楽しかった」。

次に話したいのは、実際の勉強面だ。僕は国語と英語がとっても苦手だ。今回の学習ではあまり成果が出せなかったが、自分の弱点、取れていないところが明らかにしたので、夏休み中に克服できるようにしたい。そして、今回初めて単語、語句などを頑張ったので、これからも引き続き頑張りたいと思う。三教科の中でも一番できる数学はB-1の最優秀賞を獲得することができた！す〜く嬉しかった。呼ばれた時は発狂した。形になって残るのは本当に努力の結晶だと思う。これからも精進していきたい。だけど、四回目のテストで二問ミスをしたのが本当に悔しい。この経験を糧に受験まで突っ切りたい。

この合宿は、自分の中ですごい影響を与えたと思う。これからも仲間でありライバルである日教生たちと共に二月の勝者になるために自分を磨いていきたい。

S・Tくん

「時計」

勉強、勉強、勉強、毎日勉強。頭がおかしくなりそうなくらいに勉強の数日間でした。ですが、改めて感じたのは、「時間の大切さ」です。

毎日こまかにスケジュールが振られて、休む暇があれば自習する。それが当たり前前の生活でした。ですが、それだからこそ空き時間をどれだけ有効活用できるかが大切になっていました。宿題を終わらせ、残りの時間はテスト勉強。やるべきことを早く終わらせ、さらに詰め込み、時間が来たら移動する。空いている時間を計算したら、全ての行動を最短で終わらせると、二時間三十分くらいでした。多く思えますが、この時間で国語・数学・英語の宿題とテスト勉強を終わらせないといけません。とても大変なスケジュールですが、それだけ自分を成長させることができました。これからの日々を過ごしていく中で、今回の経験を生かしていこうと思います。きつとこれからも、時間に追われて迷うことがあります。ですが、今回の経験をjてそんなことも全く迷わないようになつたはず。これからも日々の時間をしっかりと有効活用していきます。

K・Kくん

「合宿を終えまして」

私は今回の合宿に行つて三つのことを学びました。

一つ目は、仲間と協力することです。

私はこの合宿で勉強の次に大事なことだと思ひました。当日班員が発表された時、妙な安堵と不安が入り混じっていました。合宿での生活でみんなと声をかけ合いながら楽しく充実した日々を送ることができました。一人だと難しいことでも、周りに手を差し伸べてくれる仲間がどれだけ大切なのかを知る機会にもなりました。正直、生活面で一番驚いたことは、なぜか優秀班に選ばれたことでした。

二つ目は、勉強に対する姿勢です。初日、私は少し緩い気持ちで挑んでいました。確認テストなどをした時に周りの人との点数を比べて自分の立ち位置が分かり、もっと集中して授業に取り組もうと思ひました。そしてどの教科も少しずつ点数を伸ばすことができたので良かったです。また数学で最優秀賞を取ることができたので嬉しかったです。

三つ目は、合宿での生活を通してです。私は今、寮生活のある学校に行こうかなと思つている時に、この合宿で模擬体験のような形で参加することができて、寮

生活がどういふものなのかがよく分かり良い経験になりました。

私は、この合宿で多くのことを吸収することができて自信に大きくつなげることができて良かったです。

N・Kさん

「全てが初めてだった夏期合宿」

何の情報もなく始まつた合宿生活で、連絡委員という仕事を任されて正直不安しかなくて、五泊六日乗り越えられるか分からなかつたけど、最後の夜を迎えて一日目の自分は風紀チェックの最終チェックが甘かつたり、授業時間に少し遅れてしまつたりとあまり緊張感がなかつたけれど、先生の説諭を二日目に初めて聞いた時、「これはヤバイ」や「ちゃんとしな」と同じ目にあう」など一気に気を引き締めることができ、班員にも同じ目にあわせたくないなど、同時に責任感も感じる事ができ、自分にとって良い刺激になりました。授業内で出た宿題の量は一日で終わる量ではないと感じたので少しの間でも勉強しようとする意志がこの合宿で一番身に着きました。怖いこと、難しいことはもちろんたくさんあつたけれど、それと同じくらい勉強で忙しかつた中三生に対しての花火だつたり、表彰

だつたりがあり、光が丘にいる子たちとも交流することができて、とても楽しかつたです。他にも、百点やクラス最高点を取つたら金シールやニコちゃんマークのキラキラシールが貰えて、色々な面から支えてくれた先生方がいたから五泊六日乗り越えることができたと思ひます。あと半年！二月の勝者になるために、志賀高原夏期合宿を土台に少しでも成長できるように、全力疾走してきます！負けるな自分！頑張れ自分！

S・Mさん

「夏期合宿の思い出」

長いようで短かつた五日間は私にとつてとても大切な思い出になりました。特に、最初の一日は強く印象に残つています。家族と離れた生活、友達との共同生活、全てが初めてで不安が強かつたです。そんな中、休み時間が少なく宿題の量もあり、普段ならだらとした生活ばかり送つていた私には慣れないことばかりでした。そんなぎりぎりな生活を過していただいたせいで、一度お父さん先生から説諭を受けてしまい、「こんな余裕のない自分は大めだ。」と思ひました。

そして、自分の変化を感じたのは三日目です。いつも宿題に追われていた朝は、

宿題ではなく漢字テストの勉強に取り組むことができ、xを三回つけられてしまつた部屋は全員で協力して花丸をもらうことができました。そんな成長を感じた三日目の夜に見た花火は、それまでの二日間の不安や落ち込んでいた気持ちを吹き飛ばしてしまふほどにきれいでした。

そして、花火の最後に中田先生の言つていた、「私たちはあなたたちの道を照らしました。あなたたちも誰かの光になってください。」という言葉に将来の心配事が少し軽くなりました。

この合宿で私はシール二枚だけしか取ることができませんでしたが、自分の中の全力や仲間との協力を知ることができて、頭だけではなく、心も大きく成長することができました。この先、辛いことや一筋縄ではいかないことが増えていくと思ひますが、日教という光と共に、先へ進んでいこうと思ひます。

S・Cさん

「夏期合宿を終えて」

今回、志賀高原の夏期合宿に参加して、正直あつというまの五泊六日だつたなと思ひました。合宿に参加する前は行きたくないと思つていたし、不安もあつたけれど、いざ自分が参加してみると辛いな

れていくにつれ、全教科でもっと良い点数を取りたいという気持ちが強まってきました。勉強面で特に嬉しかったのが、英語と国語の語句テストで全部百点をとれたことです。また、表彰式で名前を呼ばれたときも今までの頑張りが報われたようです。くうれしかったです。

行く前は、嫌で嫌でたまらなかった合宿ですが、いざ行ってみると、良い点数をとれたときや、クラスで良い順位をとれた時の爽快感があり、とても楽しかったです。あとは、星を見られたら最高でした。

E・Nさん

「行く前と後の気持ちの変化」

行く前の気持ち。
「まじでやだなー。」
行った後の気持ち。

「え、意外とつらくない。」

そう思った人生初の勉強合宿。つらいとばかり考えていたのに、友達と協力して過ごしていくのは楽しかった。これは行く前の人たちには、考えられないことだと思う。毎日、毎日説諭されなにかおびえる日々。勉強面でも、生活面でも意識していかないといけない。でも、この合宿を終えてもっと頑張ろうと思えた。

行く前は受験生という実感がなかったのに、今では悔しい思いをしないようにという気持ちが芽生えることになった。この悔しい思いというのは合宿の最後の表彰式で、勉強面で賞がもらえなかったことだ。いろんな人がもらっていた中で自分がもらえなかったことがこの気持ちに火をつけた。合宿が終わった後にしたいことがたくさんできたし、実現したいことがある。みなさんもこんな体験をしてほしい。

M・Iさん

「合宿を通して」

私はこの合宿に来る前は、自分の実力が他の塾生にどのくらい通じるのかわ不安でした。けれど、表彰式が終わった今、安心感と向上心と嬉しいという気持ちが入り混じっています。国語は優秀賞をとれました。この結果に少し悔しさが残ります。最終日のテストで逆転されてしまったからです。得意な科目だからこそ、今以上に満遍なく知識を広げ、向上していきたいです。私が一番衝撃的だったのが、最終日の英語のテストで三位をとれたことです。英語は苦手意識がものすごく、シールがもらえるなんて夢のまた夢だと思っていました。しかし最終日、皆

が点数を言っていく中、私は心の中で、もしかしたらシールがもらえるんじゃないかとドキドキしていました。そして、先生が三位のとき私の名前を読み上げました。このことで、英語の苦手意識が少し減りました。自信にもつながったと思います。話は表彰式に戻りますが、賞をもらったとき、中田先生に励ましの言葉をもらい、もっと国語得意になろう、好きになろうと思いました。また、班優秀賞をとれたときは、班長としてほらしかったんです。大変だったけど、責任があった役割をまっとうすることができ、達成感がありました。

F・Mさん

「諦めない心の強さ」

「本当に楽しかった。」

合宿に来る前までは、「まじで嫌だ」「特別仲が良い子もいないし、絶対楽しめるわけない」「先輩の作文には楽しかったって書いてあるけど絶対嘘でしょ」などマイナスな気持ちばかりで、合宿の日が来ることをただただ恐れていました。

合宿当日。荷物の準備が当日の午前三時まで終わらず、コンディションが最悪

な状態で迎えました。宿についてから、眠りにつくまで「早く帰りたい」という思いが強まりました。でも、二日三日と過ごすうちに、「あれ？意外と楽しいかも」と思い始めてなんとか最終日までくることができました。初めはつらいということしか頭になかった私が、最終的には学ぶことの楽しさ、仲間と共に頑張っていくことの楽しさを実感していました。正直、驚いています。「勉強」というものが生活に大きく組み込まれていなかったのに、「ここまで勉強できたこと」にやればできるかもしれないと自分への可能性を見出すことができました。この合宿を通して、まだまだ成長できると確信し、それと同時に諦めない心を自ら掴みにいけました。

最後には、国語努力賞、班優秀賞を取り、友達もできて、最高の五泊六日を過ごすことができました。

「ここまで短時間で成長することができたのは合宿のおかげだと自信を持って言うことができます。本当に本当に心の底から楽しかったです。ありがとうございました！」

PS 谷津先生のおかげで乗り切れしました。大感謝です！！

M・Mさん

「再挑戦」

私は、この合宿を終えて自分の夢に再挑戦したいという思いが強くなりました。私の夢は、大きな夢から小さな夢までたくさんあります。中でも、私が一番叶えたいと思う夢は受験に合格することです。私が、この夢を持ち始めたのは小学校五年生の時です。私は、小学校四年生の時に日教に入り、入塾してから半年後、中学受験クラスに入って、今まで遊んばかりだった私は真逆の生活を中学入試本番までの二年間過ごしました。しかし、結果は不合格。結果に絶望し、涙が止まりませんでした。そして、中学校二年生の秋まで別の塾に通いましたが、自分が絶望して、勉強から逃げていたため成績は落ちていくばかりでした。その時に、私は日教に戻る決意をしました。日教に戻ってきて、本当に良かったのか迷っている時もありましたが、今回の合宿で日教に戻ってきて本当に良かったと思えました。勉強では、まだまだな部分がたくさん見つかって悔しかったし、悲しかったのですが、周りの子がんばっている姿や先生方の一生懸命さを見て、最後まで前を向いて取り組みました。悪い所ばかりではなく良い所もたくさんあって、

たとえば小学生のころ姉妹そろってお世話になった、中田先生に会うことができたり、さらに、私のことを覚えていてくださったことや、優秀班に選ばれてみんなで笑い合ったり、自分にとって本当にうれしいこともたくさんありました。

私は、この合宿でたくさんの人に背中を押してもらって、絶対に夢に再挑戦しようと思えました。半年後、良い報告が周りの人にできるようにがんばります。谷津先生、迷惑をたくさんかけてすみませんでした。そして、ありがとうございます。

U・Eさん

「志賀高原合宿を通して」

私は、今回の合宿を通して学んだことが二つあります。一つ目は、自分で時間を管理することの大変さです。私は合宿前からテキパキと行動していましたが、慣れない環境の中で大人数の人たちと一緒に行動すると時間の調整が難しく慌てて生活する毎日が続きました。しかし、日を重ねていくうちに班での絆が深まりお互いに協力し合って活動することができ自分たちで宿題をする時間を作ることができました。二つ目は、勉強をする態度です。いつ

も家にいると休憩の時間を多く取り過ぎてしまいがちですが、今回の合宿では休みたいけども休めないような環境で、気を引きしめて全力で勉強に取り組むことができました。

このことから私は、最初は家族や親友とはなれることが辛くて本当に合宿に行きたくなかったけれど、勉強していくうちに仲間と協力することの大切さを感じることができました。また、勉強面だけではなく生活面でもたくさんの方々とコミュニケーションをとり、学び合ったりすることで達成感を得ることができました。

O・Rさん

「合宿」

私はこの五泊で、たくさん学んだことがあります。それは真剣に勉強していたかというのと、家族の大切さです。一つ目の真剣に勉強していたかについては、合宿ではスマホをもっていなかったから、ラインとかも気にせず勉強だけに集中して取り組み、自分は何が得意で何が苦手どこを中心として復習をしないといけないというのがよくわかりました。これからはスマホやゲームをなるべく使わないようにして、勉強に集

中できる環境を作っていきたいと思いました。

二つ目の家族の大切さというのは五泊も家族と離れてみて、夜中に廊下で怒鳴り声が響く中、睡眠をとらなくてはいけないこと、部屋をずっときれいにしておかなくてはいけないこと、家とは全く違う環境プラス心のよりどころである家族と一緒にいれないことが、とてもつらいというのがわかりました。最近、家にいる時間が短く家族とコミュニケーションをとることができなくなっているけど、少ない時間の中でも一日一回でもいいから、家族とコミュニケーションをとることを意識したいと思いました。

T・Aさん

「合宿の感想」

私は今回の合宿で言われたからやるのではなく自分から計画的に勉強するスイッチが入りました。私は合宿の前は自分からやることあまりできず、人に言われたからやる、提出期限が迫っているからやる、という感じでした。しかし、合宿であまりやれと

言われることがなくなり、短い自習時間でいかに効率よく宿題を終わらせることができるかが勝負でした。だから、自然と隙間時間を活用する癖ができました。

また、効率的に早く宿題を終わらせるためには、毎回の単語、熟語、漢字、語句テストで直しがあまりないように、高得点を取り、宿題はスピードと正答率を上げるために授業をしつかりと聞くという良い習慣ができました。

しかし、嫌なこともありました。

それは説諭です。私たちはしおりに書いていなかったことを先生に聞かずにそのまま私たちだけで判断して動いてしまいました。夜、みんなで叱られ、反省してより良い生活を心がけるようになりました。

結果的には良いことも嫌なこともあったけれど良い思い出になりました。

H・Mさん

「志賀高原夏期合宿を通して」

私が志賀高原合宿を通して学んだことは二つあります。

一つ目は、一回一回のテストの重みです。平常の授業のときは、再テストにならないようにすれば良いと思っていました。しかし、合宿の語句テストや、漢字

テストでは、百点をもらうことができな

いと、シールをもらえません。一日目は、

英語の語句テストで、百点を取ることが

できました。しかし、二日目では、百点

を取ることができませんでした。その時、

周りの人が百点を取っているのを見て、

羨ましいと思うと同時に、悔しいと思い

ました。そこから、英語の語句テストと

漢字の語句テストでは百点を取ろうと思

い、スキマ時間を活用して、練習しまし

た。しかし、次のテストでも、百点を取

ることができませんでした。そのとき思

ったことは、合宿のためのテストで毎回

百点取れるように練習すればよかったな

と思いました。その後、最後に百点を取

れたときは本当に嬉しかったです。私は、

合宿の語句テストを通して、一回一回の

テストを本気で取り組もうと思いました。

二つ目は、勉強以外のことを丁寧に行

うことです。合宿では風紀のチェックが

厳しいです。だから、最初は何でこんな

に厳しいのかなと思いました。しかし、

時間がたつにつれて、部屋がきれいだと

勉強がはかどるなと思いました。合宿が

終わった後でも勉強がしやすい環境を作

りたいです。

以上の二つ以外にも、合宿では多くの

ことを学びました。この経験を糧にして

頑張っていきたいです。

T・Mさん

「五日間の勉強合宿を通して」

私はこの勉強合宿で絶対志望校に受かろうと決心しました。

合宿前までは、だらけて受験勉強に一

切手をつけていなかったけど、合宿が始

まって家とは真逆の生活を送ることにな

りました。一日目、しおりを配られ、中

身を見てみると、休みが全然なく、授業

で埋め尽くされた時間割が目に入りました。

その時、正直私は絶望の気持ちでい

っぱいになりました。さらに、実際の生活

してみると、毎日部屋の整理もしなきゃ

いけないし、多い宿題も一日で終わらせ

なくてはならないし、予想以上に大変で

早く家に帰りたいと思うばかりでした。

そんな中、私たちの班は消灯後の電気

のつけっぱなしを理由に夜中に説諭を受

けてしまいました。私はそれをきっかけ

に切り替えてがんばろうと思うことがで

きました。

この合宿は大変で嫌なことばかりだ

ったけれど、受験の活力にもなった、良

い合宿になりました。

R・Rさん

「地獄とはまさにこのこと」

一日目、I先生の計らいによって同中の友達と生活班がわかれてしまった時には、先生に対してどうしようもない憤りを感じました。本当に絶望を感じたし、全てのことにイライラしました。そして

長いバスを走らせて部屋に着き、開講式が始まるまでそこまで仲良くない私たち五人はそれぞれ気まずい雰囲気を感

じながら過ごして、その間は帰りたいとは思っていませんでした。初めての授業を終

え、その日の夜、初めて説諭を聞きまし

た。怒鳴り声を聞きながら寝なければい

けなかったその時、本当にここは地獄な

んだなと本能的に感じました。案の定、

慣れない環境で枕は高すぎるし、寝られ

るわけがありませんでした。特に隣で寝

ている友達の寝言がうるさすぎて、説諭

なるからはよ黙れと何度も思いました。

そして、地獄を乗り越えた朝五時あたり、

友達の時計のアラームが鳴りました。目

覚まし時計は禁止というルールだったの

で、これも説諭なるからはよ止めろと思

いました。時計の所有者である本人は

ぐっすり寝ていました。本当イライラし

たし最悪の班だと思った一日目でした。

しかし、一日目とは変わって五日目で

は、一日目と同じ面子とは思えないほどに絆ができました。光が丘のSという共通の敵がいたからでしょうか。本当にこの班で良かったと思います。これといつたきつかけはないのですが、みんな本当に仲良くなったし、みんながみんなのことを大好きなのが伝わってくるほどに和やかな雰囲気を作り上げられていました。多分Kにいたらこんなに良い雰囲気でもなると仲良くなった合宿を過ごすことはできませんでした。

これからクラス分けがあるけど、みんなと合宿で培った深くして強固な絆を武器に、これからも全員欠けることなく受験に向かって走っていきたくて強く思えた素晴らしい合宿でした。なお、食事中に事務所の許可なしで写メってきたS先生、私の指の動きを誇張して真似してきた！先生は許しません。

Y・Aさん

「団結力」

合宿当日の朝。朝六時前に日教に集まってしおりの中の班分けの表を見て、私は少し絶望しました。なぜなら、いつも一緒に夜ごはんを食べ、おしゃべりしている三人と一人だけ班が分かれてしまっただからです。

「え、Aちゃんだけ班別じゃん。」
「え、まじ。どんまい(笑)」

さらに、班のメンバーは私とあまり話したことのない子たちばかりで、私は正直、I先生にやられたと思いました。

バスの中で、私はじゃんけんにかけて一人席になってしまいました。しかし、班の子たちは一人席の私とも話してくれて、仲良くなれるかも、と希望がもてました。その夜、事件が三つおきました。

I先生の「消灯。消灯です。」の放送の時に私はトイレにいて、ドアを開けたらS先生がいたので。消灯後に起きたら説諭です。でも一日目だったからかS先生は怒りながらも許してくれました。

二日目の明け方。アラームの音が聞こえて目が覚めました。しかし合宿に目覚まし時計を持ってきたら説諭です。Rさんと私が起きてTさんの時計が鳴っていることに気が付きました。Tさんが最後に起きて私たちは説諭を回避できました。

三つ目の事件は部屋の風紀です。一日目の夜の風紀チェックで私の班はバツをくらってしまった。バツ三つで説諭です。私たちはとても焦りました。

このようなたくさんのハプニングを通して、はじめは話しぶりいなと思っていた人も大好きな友達になったし、Sの女

子全員の団結力が増して最終日の表彰式では誰かが選ばれたら皆で大喜びしました。受験勉強は団体戦です。これからS皆で団結して皆で楽しく勉強して充実した半年を送り、また皆で大喜びします。合宿最高でした！

S・Rさん

「充実」

私は正直この合宿で辛いことが多かった。この合宿に対する不安はむしろあったし、同じ中学校の女子はSクラスにいないと友達もいなかった。そして迎えた合宿日。

今、この作文を書いているのは五日目の表彰式後、夜食を食べている私。今の素直な気持ちは、「充実した合宿だった。」それ一つ。

合宿中、私の中で一番大きかったことは名札に貼られるシール。小テストで満点を取れたとき、クラス上位三位に入るときももらえるシール。私は決してシールの数が多いわけではなく、周りの友達とすれ違つ同級生の胸元はきらきらと輝いて光って見えた。小テストが返される度、他の人がシールをもらっているときとても悔しく涙が出た。思つように点数が伸びない、そんな自分が情けなくて悔しく

て自分をよく責めた。でも、先生からの励ましの言葉、「以前よりも点数上がってきているね。」小テスト満点。おめでとう。」

そういう一言が合宿中の救いだった。合宿前、話すことがなかった友達とも勉強を教え合うまで仲良くなった。友達も勉強方法も学べるようになった。途中、中日の花火もなんだか蛍と花火の光が私には真つ暗の中で輝けるほんの少しの希望に見えた。

気づいたら前を向いていた。ただひたすらに勉強に対して一生懸命向かっていて、ずっと下を向いていた自分はいなくなる自分がいた。

この合宿で普段見られない友達の勉強姿など多く学び、勉強面、生活面、友情面において成長できたと思う。合宿で学んだことを忘れず、生かし、今まで以上に前に進み続けていく。決意した。絶対に怠けず決して合宿の意味を忘れず、最大限に全力を尽くす。辛い思いをたくさんしたし、勉強面でうまく伸びず苦しい思いをした。ただ、先生、花火、蛍、全てにおいて背中を押された気がする。先生に最後感謝を伝えることは入試合格にしよう。

I・Sさん

「友達」

私はこの合宿が楽しかったなと思います。合宿の前先生たちはとても辛い五日間になると言っていて、友達も二・三日目は辛い早く帰りたいと言っていました。でも、私はたしかに宿題に追われて大変だけどそこまでこの合宿が嫌ではなかったです。

この合宿が楽しかった一番の理由はSのみんなです。正直最初はまだ仲良い子はいるけど、あんまりしゃべったことがない子もいました。でも日に日に、夜中のハブニングや、他校生徒問題で仲良くなっていき、今この作文を書いている時にはたくさん絆が生まれました。毎日勉強につかれてもごはんの時間にはいつも爆笑していて本当にSでよかったなと思いました。

もう一つ友達に助けられたことは、英語です。私の班のみんなは、英語ができて本当に助かりました。英語で出た宿題は、わからなすぎて人の何倍も時間がかかったけど、みんなに聞いたら説明もちゃんとしてくれて、宿題の後半とかは自分で解ける問題が一目よりも明らかに増えました。正直英語の実力テストはいつもクラスで最下位レベルだったけど最

後のテストでは自己最高点もとれてみんなと同じくらい点数がとれて本当に嬉しかったです。

ももとはDにいた私だけけど、どうしてもみんなと合宿に行きたくてがんばったらSに行くことができました。合宿は五日間だけけどその前があったから今の自分があると思いました。次のクラス分けてSに残り、Sでたくさんできた友達と一緒にこれからも勉強するために合宿後まじでがんばっていきたいと思います。

T・Yさん

「合宿」

五日間合宿に参加してみて沢山のことを学びました。慣れないことも多く、不安なことも多かったけれど、なんとか五日間を乗り越えることができました。

まず生活面についてです。同じ中学校の人もいなかったので心配なことも多かったです。でも話してみると雰囲気は良く、楽しく生活できました。また、勉強で分からないことがあった時にそれが得意科目であった班の子に教えてもらいやり方を理解できたことや、困ったことがあった時すぐに声をかけてくれるなど、様々な面で班員の四人には助けられまし

た。班員以外にも同じSのメンバーとは、順位について励ましあって、より絆が深まる場面が多かったのかなと思いました。次に勉強面についてです。毎日各教科で実力テストがありそれによって順位が変動するからこそ敏感になるし、一点一点の大切さをより実感しました。順位の自分の上下の人を見るとあと一問取れていたら、または落としていたら大きく変動してしまうような場面も多かったです。

特に英語は、単語テストで百点が続いたからこそ最後まで百点で終えたいという気持ちが高く、ミスの怖さをより感じました。そして、比較的自分の中で上位を保っていたからこそ実力テストがブレッシュャーでもあり毎日緊張しながら取り組みました。その結果、総合順位でなんとか一位を取れたので驚いたし、とても嬉しかったです。

今まで、これだけ勉強とだけ向き合った経験がなかったからこそ良い経験になったと思います。また、これから下期にかけてさらにギアを上げていかないといけないからこそ、今回頑張ってきたことをモチベーションに、自分と向き合いたい、今自分に必要なこと、やらなければいけないことに全力で取り組んでいけたらとより思えた五日間でした。

O・Rさん

「決意表明」

この合宿は自分にとって悔しさが残るものだった。しかし、合宿に来る前に想像していた程、ただ辛いだけのものではなかった。

合宿の悔しかった点は、語句テスト、単語テストで満点を取れたのはたったの三回だったということだ。直前に見て瞬発的に覚えていた今までの悪い部分が、この宿題に追われる日々の中で、日々の積み重ねが大切だということはこの八回の小テストで学んだ。他に悔しかった点は、何の部門でも表彰がなかったことだ。勉強としては、自分の得意科目といえるものがなかったが、どこか心の中では、何かしらの表彰には入れるのではないかと期待してしまっていた。後半になると自分は無理かとも思ってしまい、班の中で私だけ何にも表彰されないのではないかと嫌になることもあった。正直この五日間ではどうあがいても順調に成績が上がっていくことはない。この五日間は今のままではダメだと感じさせてくれた。また、班の表彰も取ることができなかった。表彰されなかったということだけ見ると悔しいと思ってしまうが、得ら

れたこともあった。まず、初日に風紀チェックで△がついた。これをきつかけに班全体としての雰囲気が一気によくなつたと思う。みんな譲り合いの精神をもち、班員の新たな姿を発見することができた。自分的にはこの班が一番だと思う。

この合宿を通して、この半年間の仲間と共に乗り越えていきたいという気持ちが強くなった。今私は崖っぷちにいる。合宿で現実を見せられて悔しかった。しかし、悔しかった思いをバネにあと半年の期間をどう過ごすべきなのか考えたい。この仲間となら本気になれる。私は残りの半年間全力で戦い抜くことを誓う。

I・Mさん

「悔しさをバネに」

私がこの合宿で一番感じたことは、悔しさです。合宿の授業内で行ったテストでほとんど悔しい思いをしました。

まず一日目から得意だと思っていた国語の長文テストで目標点にも達しない点数を取ってしまいました。点数が出たときは今までにないくらい落ち込んでいたと思います。一日目の最初の授業は国語だったので、そんな最悪な気持ちから合宿がスタートしました。

その後も納得のいかない点数が続き、

「クッソーシール」ばかりが目標カードに貼られていきました。特に英語の単語・熟語テストでは一回目を除いてすべて九十八点。一回ミスで三回もシールを逃してしまいました。最後のテストで満点を取れなかったときは本当に泣きそうでした。

八月九日の夜、表彰式がありました。個人での結果は、英語で第三位。単語テストをとっていけばもう少し順位が変わったかも、とは思いましたが、一番苦手な英語でベスト3に入れたことはとても嬉しかったです。しかし、得意教科の国語で表彰されなかったことはとても悔しかったです。合宿ではなかなか国語の点数が伸びなくて、苦い思いをしたので、今後様々な解き方を試して点数を上げていきたいです。また、部屋の風紀チェックでは惜しくも二位で班員全員、とても悔しがっていました。スターコレクター賞ではあと一枚というところで二位になってしまい、とても悲しかったです。「あの問題解けていたら一位だったのに。」と今更後悔していました。

先ほども述べた通り、「あの問題が解けていたら。」と問題一問で結果が変わることとは十分あります。先生にも耳にたこができるくらい言われました。受験でも問

題一問、なんなら一点で合否が分かれま

少し安心した。

N・Aさん

「きれいな時間」

私は、この合宿でよかったと思うところもつとががんばらなくてはいけないところ

次、特にもつとががんばらなくてはならないことが国語と英語である。私はどうしても文章を読むのが遅くて今もずっと課題である。国語は文章を一回読んだだけでは理解できないし、英語の長文もなかなか理解するのが難しいのは変わっていない。でも、この合宿で普段とは違う先生に習うことで別の解き方、考え方を教えてもらうことができた。そのおかげが今日の英語の実力テストで九十四点を取れて嬉しかったし、初めて英語で星のシールをもらうことができた。

まず、よかったところが二つある。一つ目は、久しぶりに友達と宿泊したことだ。私がこの夏期合宿の前にあった宿泊学習は約四年前だった。だからこそ、この合宿はとても緊張していたし、不安だった。しかし、実際に来ると、しゃべったことのない人との班でも大丈夫だった。それどころか、逆に関わりのなかった人の素が良く見えておもしろかった。みんなの笑顔などのいろいろな表情が見えて、とても仲が深まったように感じた。

最後に、この合宿は長かったようでも短かった。正直、家に帰りたいと思うことが一瞬くらいはあったと思う。でも、友達と話し勉強して過ごした五泊六日はとても優れてきれいな時間だったよ

二つ目は、語句テストの点数だ。国語は、漢字テストで三回連続満点だったのがすごうれしかった。夏期講習でも一回も満点がとれなかったし、それをどこかで許してしまっている自分がいたのも事実のような気がする。だからこそ、満点が

N・Aさん

「本気で努力がしたい」

漢字テストで三回連続満点だったのがすごうれしかった。夏期講習でも一回も満点がとれなかったし、それをどこかで許してしまっている自分がいたのも事実のような気がする。だからこそ、満点が

私はこの五泊六日の合宿を一枚四百字の作文用紙に書き表すことなどできない合宿に行く前、合宿に行けば新しい自分に出会えると思っていた。しかし結果的には、新しい自分には出会えなかった。

続いて、今日の最後も満点だったとき、

何もかも納得できなかった。では、私が

この合宿中、もがいて悩んで見つけた私の知らない一面は何だろうか？それは胸を張って答えられる。心の底から悔しかったあの時の気持ちだ。テスト用紙を破りたくなった時だ。中学生になつてからは何もかも中途半端で、中の上くらいを保って満足しているつもりだった。人より少しできるのは当然だし、自分よりできる人に対しては「こんなもんだよな。」と勝手に見切りをつけて、自分で自分を一定の範囲に縛り付けていた。そんな残念な私にも、まだ悔しいという気持ちが残っていたのだ。テスト中のあのメラメラとした「負けるもんか」という気持ちと、それを乗り越えて先生に点数を告げるときあの生き生きとした気持ちは、間違いなくこの合宿で得たものの中で私を軌道修正したものだ。

私が最も印象に残っていることは、説諭の時間だ。三日目の夜、班員の一人が説諭を受けた。その時五十嵐先生が言った一言に、私の今の思いや、努力する理由が全て含まれていた。「みんなで足並み揃えて第一志望合格したいんですよ。」私は布団の中でこの言葉を聞いて、全身に力が入った。そうだ、私はみんなで合格を目指しているんだ。一人じゃない。同じゴールに全力で向かおうとする「仲間」がいる。「私が私！」と一人で焦って転んでいた夏期講習前期の時には絶対に理解できなかっただろう。私は間違いなく「本気で切磋琢磨し合える仲間」を得た。私は本当に本当に日教が大好きだ。こんなところで足踏みしている時間は一秒もない。一問でも多く問題に当たり、少しでも多くの点をもぎ取る。

私は本気の努力がしたい。恥ずかしいが生まれて初めて心からそう思えた合宿だった。

T・Kさん

「飛躍」

この五泊六日の勉強合宿は、私にとつてとても貴重で、かけがえのないものになった。今まで私が経験してきた宿泊行事で一番日数が多く、初めての勉強合宿だったため、前日、当日まで不安と恐怖でいっぱいだったが、いざ日を重ねていくうちに楽しさや充実した気持ちを感じることができた。

生活面では、班員と協力して部屋の風紀を保ち、比較的高評価をいただくことができたと思う。惜しくも順位は二位となっていたそうだが、この協調性と計画性は誇れるものだと思っている。また、たったの六日間だったが、Sクラスのメ

ンバーのことを更に知れて、勉強の教え合いはもちろん、他愛のない話も沢山できてとても良い機会であったと感じる。

勉強面では、三教科とも嬉しい思い、悔しい思いが入りまざってとても良い刺激となった。特に国語では、初日、二日目ともに長文テストでA3一位を取るこゝとができて嬉しかった反面、三日目は二位、四日目はランクインもできず焦りと劣等感でおしつぶされていた。その中で五日目、最終日を迎え、七十点で三位にはなれたが自分では満足いかない結果となった。そして表彰式。A3国語の最優秀賞で自分の名前が呼ばれたときは、本当に本当に歓喜と安心の気持ちがあふれてきた。この少ない五日間の努力が報われたのを実感できた。

一生に一度であろうこの日教の勉強合宿は、ずっと忘れることのできない最高の思い出となった。説諭によって人よりも合宿に対する強い思いを痛感できたとも思う。この頑張りそのままにせずここからが原点、半年後の入試に向けて日々精進していく。この大切な仲間と過ごした時間を糧に切磋琢磨していきたい。そして全員第一志望に合格して、華の高校生活を送りたい。

N・Tさん

「仲間と成長」

合宿に行く前、私は恐怖心でいっぱい、正直言って行きたいとは思いませんでした。そんな気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、仲間と朝屋晩のごはん、そして朝と夜のちよとしたレクです。

はじめは慣れないことばかりで先生方の怒鳴り声やメンバーの行動の素早さに驚いてばかりでした。また課題をこなしていくスピードは私よりもよっぽど早く焦りました。自分ではできない人なんだと自己肯定感が下がる毎日が続くのかと思うと先が真っ暗になりましたが、この合宿で学んだ一つの事、「前向きに頑張る」ようにしました。授業を受ける度に周りの友達の声が増え、漢字や熟語テストでも満点者が増えていく。自分は初日に英熟語テストでシールをもらえましたがそれ以降はもらえなくなっていました。その時の焦りや悔しさは布団の中で何度も自分に襲いかかってきました。最終日まで漢字テストでは一回も満点を取れませんでした。絶対に満点を取るんだ！と自分に決意し、死ぬ気でテストに臨みました。席が隣の友達と丸つけをする時、ボールペンの音が恐ろしかったです。自分は満点を取れるのだろうか？

…。返ってきた答案を見て、私は思わず喜びの声を上げてしまいました。心の中で。

漢字・熟語テストだけでなく駿台テストで一〜三位に入ってシールをもらえた時の喜びは言葉になりません。体の力が一気に抜ける、そんな感じですよ。

この合宿に参加して、課題をこなすスピードが本当に速くなったと思います。

これは一緒に辛い壁を打ち破っていく友達を見て成長しました。結果が出ない日も必ずあります。そんな日は、ご飯も進みません。だけど何度でもリベンジはできます。私は苦手な教科として英語が挙げられます。しかし表彰式で英語の努力賞の時に自分の名が呼ばれました。夢にも見なかったことが現実起こり得たのです。この喜びを糧に入試まで猛烈に突き進んでいこうと思います。

S・Kさん

「合宿から今に生かすこと」

私は、正直、最初は合宿がとても嫌でした。一日中勉強、宿題をやることに自分が耐えられるか不安だったからです。しかし、合宿は思っていたよりも楽しく充実していました。

私が印象に残ったのは、合宿のテス

ト・部屋の中での生活・花火です。

一つ目の合宿のテストでは色々成長することができました。数学では安定して七割を超え、優秀賞ももらうことができました。国語は古文が解けるようになりました。係り結びや掛詞の知識も取りもしも先生が言っていたように動作主を書き込みながら解いたら正答率も上がりました。英語は一回目から一位も取ることができました。自分の一番苦手な教科で順位にのることができたので本当に嬉しかったです。

二つ目は宿舎内での生活です。自分はバツがつかなければいいと思っていただけと風紀チェックをやっていく中で二重マルを取ろうと意識するようになりました。結果的には賞はもらえなかったけれど生活も班全員できちんと行うことができましたと思います。

三つ目は花火です。花火を見た時に中田先生が言っていた言葉が心に残りしました。「心に光を灯す」です。この言葉を聞いて、思い通りに上手くいかなくても前を向いて頑張ろうと思うことができました。そして仲間と目標に向かって進もうと思えました。

私はこの合宿を終えて、「やらされる勉強」ではなく「自ら進んでやる勉強」を

しようと思えました。合宿では「やらされる勉強」をしていました。しかし、後期に入れば自分からやるかやらないかで結果が変わってくると思います。だから、空き時間をもどのように使うかを考え、自分の実力を伸ばしていこうと思います。

N・Rさん

「合宿を終えて感じたこと」

私はこの合宿を終えて、様々なことを感じました。

最初は、毎日宿題が出て、終わるかどうか心配になったり、時間を守ったりしなければいけなかったりで、ストレスがたまっていました。それでも、みんなが高得点を目指して明るく頑張っている姿をみて、「団体戦」と思って改めて勉強に励むことができました。

私が、悔しかったことは、数学のテストです。私はもともと数学が苦手で、今回のテストもあまり良い結果が生まれませんでした。そこで私は今までの勉強の仕方ではダメだと思いました。班員を見ていると時間がない中でも丁寧に直したり、授業の内容をしっかり覚えていたり、自分に足りないところがみえてきました。

私は、これからあと半年、「数学ができる」と言い訳するのではなく、今までの

学習で不安なところを自ら確認するなど、自分で行動することで、苦手を克服し、少しでも多くの点を取りたいと思いました。

また、国語の点数も満足いく結果が残せませんでした。今まで、私は国語が割と得意だと思っていましたが、光が丘になかなか勝つことができませんでした。こうしたことから、武蔵関のクラスで比べるのではなく、更なる高みを目指していきたいと思います。

私が印象に残った言葉は、関根先生が紹介してくださったドリカムの歌詞です。良い結果が出なくて苦しい時もあるけれど、なんとか目標に向かって頑張っていきます。

この合宿で勉強の仕方など、改めて変えなければいけないなと思いました。この思いを忘れずに、あと半年、自分と向き合っていきます。

K・Rさん

「合宿を終えて」

私の合宿を通して達成したい、一番の目標は、「国語に対する思いを変える」ということだった。合宿前は、どうせ頑張ったところで何も変わらない、と始める前から諦めていたけれど、今では、楽し

いきたい。

いと思いがら問題を解くことができるようになった。特に、古文で得点が取れるようになったことが、とても嬉しかった。何を言ってるか全然分からなくて、解く気が失せていたけれど、解説を聞いて復習していくうちに、だんだんと身についていったよかったです。

もっと頑張ろうと思えた大きな理由は、先生に、「君ならできる」と応援してもらえたことだと思う。苦手なことから逃げてきた私に、やる気をくれた先生にはとても感謝している。

目標達成できたという良いことだけではなく、もちろん辛いことだってたくさんあった。

熟語テスト、語句テスト、合宿テスト、全てイマイチな点数で、なんでここにいるんだろう、と思ってた。どれだけ頑張っても結果は悪くなっていくばかりで結構しんどかった。しかし、四日目くらいでやっと成果が出たときは、今までダメだった分、喜びが大きかった。

最終的には、自分の思うような結果にはならなかったけど、普段とは違う環境、仲間と勉強できたことは、とても良い経験になったと思う。

この合宿では、悔しさが大きかったのでも、ここで挫折せずに、今後につなげて

〇・Mさん 「自信の大切さ」

私が合宿で一番辛かったのは五日目だ。前日はテストが二回あり、そのどちらでも三位を取れて自分に自信がついていた。しかし、五日目のテストでは一気に点数が下がり、あまりの落差に絶句した。しかも、英語があと二点でシールだったのに、ケアレスマスで取れなかったことが、さらに自分を追い詰めた。それだけではない。その日の熟語・語句テストでもケアレスマスでシールをもらえなかった。直前に答えを書き直したところが間違っていたりして、心がボロボロになった。

みんなは、「全然大丈夫だよ。」などと励ましてくれたが、自分のことが大嫌いなかった。みんながシールをもらっている間、自分だけ取り残されている感覚に襲われ、本当に悔しかった。そんな気持ちのまま避難訓練で外に出た。そして、いきなり大きな音がした。火花が上がったのだ。火花が上がった瞬間、私はとても驚き、それと同時に心のもやもやが、どこかにとんでいった。火花を見てると夢のような感じがした。そして、「今悩んでいてもしょうがないな。」とどこかで吹

っ切れた。その日の夜、「明日は何がなんでもシールを取る！」と意気込んで寝た。

次の日の熟語・語句テスト。一問も間違えられない緊張感があって手がふるえた。テストが返ってきて安心して肩の力が抜けた。満点が取れたのだ。また、英語のテストではついに一位の金のシールがもらえて最高にうれしかった。また、国語でもシールがもらえた。

テストではいつも良い結果が出るとは限らない。だからこそ、悪くともめげずに新たな目標を立てることで頑張っているのだと思った。東京に帰っても、合宿で得たことを糧に自分の限界を決めずにがむしゃらに勉強していきたい。



★勉強!



★ごはん♪



★表彰式★





★ルームメイト★



★ルームメイト★



不
来
方
の
お
城
の
草
に
寝
こ
ろ
び
て
空
に
吸
わ
れ
し
十
五
の
心



★武蔵関BOYS&GIRLS★

日本教育学院

武蔵関校